平成23年6月作成 KIT-002-設①

WOODONE

取付業者様用

〈 取付設置説明書 〉

システムキッチン su:iji 〈スイージィー〉

株式会社 ウッドワン 〒738-0023 広島県廿日市市下平良1-12-1

商品相談窓口 株式会社ベルキッチン

フリーダイヤル 0120-641-265

〔受付時間〕平日/10:00～12:00、13:00～17:00 休日/土・日・祝日

もくじ

安全上のご注意……2
工事区分……4
各部のなまえ……6
部品の確認……7
取付設置をする前に……8
ウォールキャビネットと
天井幕板の取り付け……13
ベースキャビネットの取り付け……17
カウンターの取り付け……21
収納庫キャビネットの取り付け……26
排水金具の取り付け……27
エンドパネルの取り付け……29
包丁差し……33
扉と引き出しの調整……34
調理機器の取り付け……39
水栓の取り付け……39
照明の取り付け……39
周辺商品の取り付け……39
オプションの取り付け……40
コーキング処理……41
清掃・検査……42
養生……44

- ■ 取付設置開始前に必ずお読みください。
- ■ 取付業者の安全と使用者の安全確保のために、この取付設置説明書をよくお読みになり、安全で正しい取付設置を行ってください。
- ■ 配管工事は、すべて「水道法」「建築基準法」「各都市の条例、規定」に準じて行ってください。
- ■ 電気配線工事は、「電気設備技術基準」や「内線規定」に従って確実に行ってください。配線工事は、電気工事士の資格が必要です。
- ■ 梱包材や残材は、「廃棄物処理法」に従って適切に処理してください。
- ■ 取扱説明書、保証書は、必ずお客様にお渡しください。
（取付設置完了後、使いかたを説明してください。）

安全上のご注意（必ずお守りください）

取付・設置される人への危害を未然に防止するためと、お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するために、取付・設置においては、必ずお守りいただくことを次に説明しています。

●表示内容を無視して誤った取り付けをした時に生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。

⚠ 警告	この表示の欄は**「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」**内容です。
⚠ 注意	この表示の欄は**「障害を負う可能性または物理的損害のみが発生する可能性が想定される」**内容です。

●お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。（下記は絵表示の一例です。）

🚫	この絵表示は、してはいけない**「禁止」**内容です。
❗	この絵表示は、必ず実行していただく**「強制」**内容です。
⚠	この絵表示は、気をつけていただきたい**「注意喚起」**内容です。

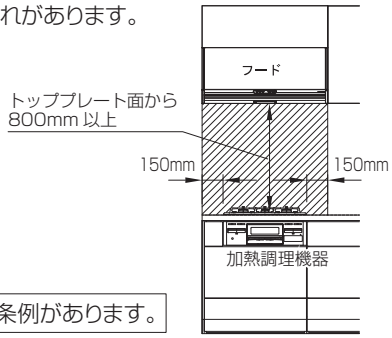
⚠ 警告

分解禁止

絶対に分解したり、修理・改造したりしない。
落下して、けがの原因となります。

禁止

フード横には一般ウォールキャビネットを設置しない。（不燃ウォールキャビネットを使用してください。）
不燃ウォールキャビネットであっても斜線部分にかかってはいけません。
火災のおそれがあります。

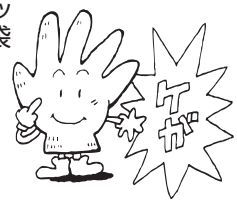


火災予防条例があります。

熱源との離隔距離は、機種や地域により異なる場合があります。詳しくは消防署等にお問い合わせください。

必ずおこなう

ステンレス製ワークトップやシンクは、必ず手袋をして取り扱う。



手袋をしないで切断面にさわると、けがをします。

必ずおこなう

取付時はヘルメット、安全靴などを着用する。
着用しないと、キャビネットの角で頭を打ったり、落下物による打撲などの事故の原因となります。

必ずおこなう

電気工事、ガス工事、水道工事は、関連する法令・規定にしたがって、必ず「有資格者」が行う。

接続や固定が不安定な場合は、火災、ガス漏れ、水漏れの原因になります。

必ずおこなう

ウォールキャビネットの設置は、建築壁の構造を確かめて、取付・設置説明書通りに確実に行う。

設置に不備があると、ウォールキャビネットが落下して、けがをします。

必ずおこなう

キャビネットの固定には、必ず指定のねじを使用する。
使用しないと、キャビネットが落下して、けがの原因になります。

必ずおこなう

下地材の材料仕様は住宅（建築物）との兼ね合いがあるので、現場監督・建築士などと相談のうえ、仕様決定する。
不適切な材料を使用すると十分な強度が得られず、落下し、事故の原因となります。

安全上のご注意（必ずお守りください）

⚠ 警告

必ずおこなう

取り付け・設置完了後は、扉のかたむき・ガタつきやヒンジのゆるみがないことを必ず確認する。

扉の取り付けに異常があると、使用中に扉が落下して、けがをすることがあります。

必ずおこなう

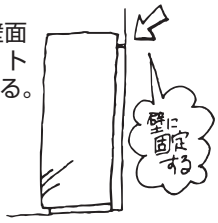
キッチンに組み込まれる電気製品・調理機器・レンジフード・その他機器については、それぞれの取付・設置説明書、製品本体の表示事項を守り、正しく設置する。

設置を誤ると、思わぬ事故や故障の原因になります。

必ずおこなう

トールキャビネットは必ず壁面固定を行う。
ベースキャビネットは必ず壁面に固定する。対面レイアウトキャビネットは必ず床固定する。

固定を行わないと、キャビネットが転倒してけがをすることがあります。



必ずおこなう

取り付け・仕上げに使われる溶剤・洗剤・接着剤・その他薬品類は、それぞれの注意表示にしたがって、正しく使う。

誤った使い方をすると、人体に影響が出たり、使用部材の損傷や劣化の原因となります。

⚠ 注意

禁止

扉や取っ手にぶら下がったり、扉を大きく開けすぎない。

扉や取っ手が外れて、けがをするおそれがあります。

禁止

ウォールキャビネットの扉を開けたまま作業しない。

頭を打ったり、収納物が落下して、けがをするおそれがあります。

禁止

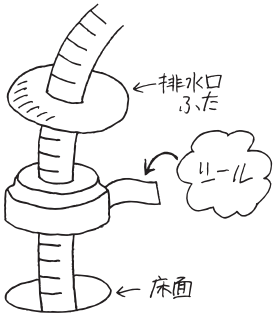
排水ホースはU字型に曲げたり、折り曲げて取り付けない。また、長いまま排水管に差し込み、横管に当たる状態で取り付けない。（管工事）

排水能力が低下して、シンクから水があふれ、周囲を汚損するおそれがあります。

必ずおこなう

排水管キャップと下水管の接続は、必ずシールをする。（管工事）

シールが不完全な場合、臭気が発生したり、湯気が上がりキャビネットやキャビネット内の収納物を破損するおそれがあります。



必ずおこなう

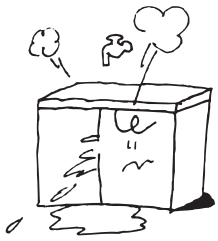
ゴミ収納本体ナットの締付けは、説明書にしたがって確実に行う。

締付けが不十分な場合は、水がもれ床を腐らせることがあります。

必ずおこなう

水栓の接続は、確実にシールを行う。

接続が不完全な場合は、水がもれ床などを腐らせることがあります。



必ずおこなう

排水管の接続部は確実に締め付ける

接続が不完全な場合、水漏れし、不快な臭い、かびの発生、腐食の原因となります

必ずおこなう

取付設置で使用するねじを固定する場合は、必ずドライバーで行い、締めすぎによるねじの空回り、頭（スリワリ⊕）つぶれのないようにする。

固定用ねじがきかないと、キャビネットなどが落下してけがの原因となります。

必ずおこなう

カウンターと壁、エンドパネルの合わせ部はシール剤で必ずシールする。

シールが不完全な場合、水こぼれでエンドパネル、壁および床を痛めるおそれがあります。

必ずおこなう

ガラス扉は強化ガラス（熱処理ガラス）を採用していますが、破損した場合、破片に注意する。

注意しないと、破片によりけがをするおそれがあります。

工事区分

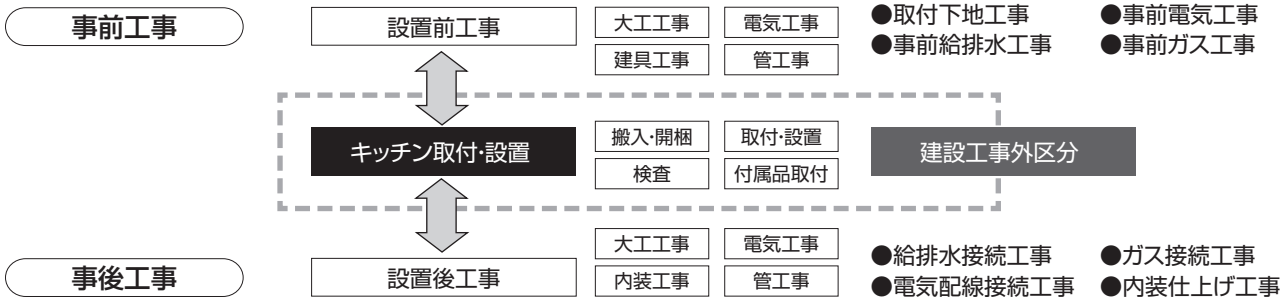
システムキッチンの工事区分に関するガイドライン

工事区分 本説明書は、システムキッチンの本体組立·設置と関連工事（建設工事）である大工工事、電気工事、ガス配管工事、管工事（給排水）、建具工事などと区別して説明しています。

⚠ 警告

建設工事は関連する法令·規定に従って法的有資格者による工事が必要になります。流通業者様（販売店様等）からの発注で下請けとして「本体の取付·設置」を行う場合は、建設工事部分と「システムキッチン本体取付·設置」を区別して行ってください。

●システムキッチンの取付・設置とユニット工事部分

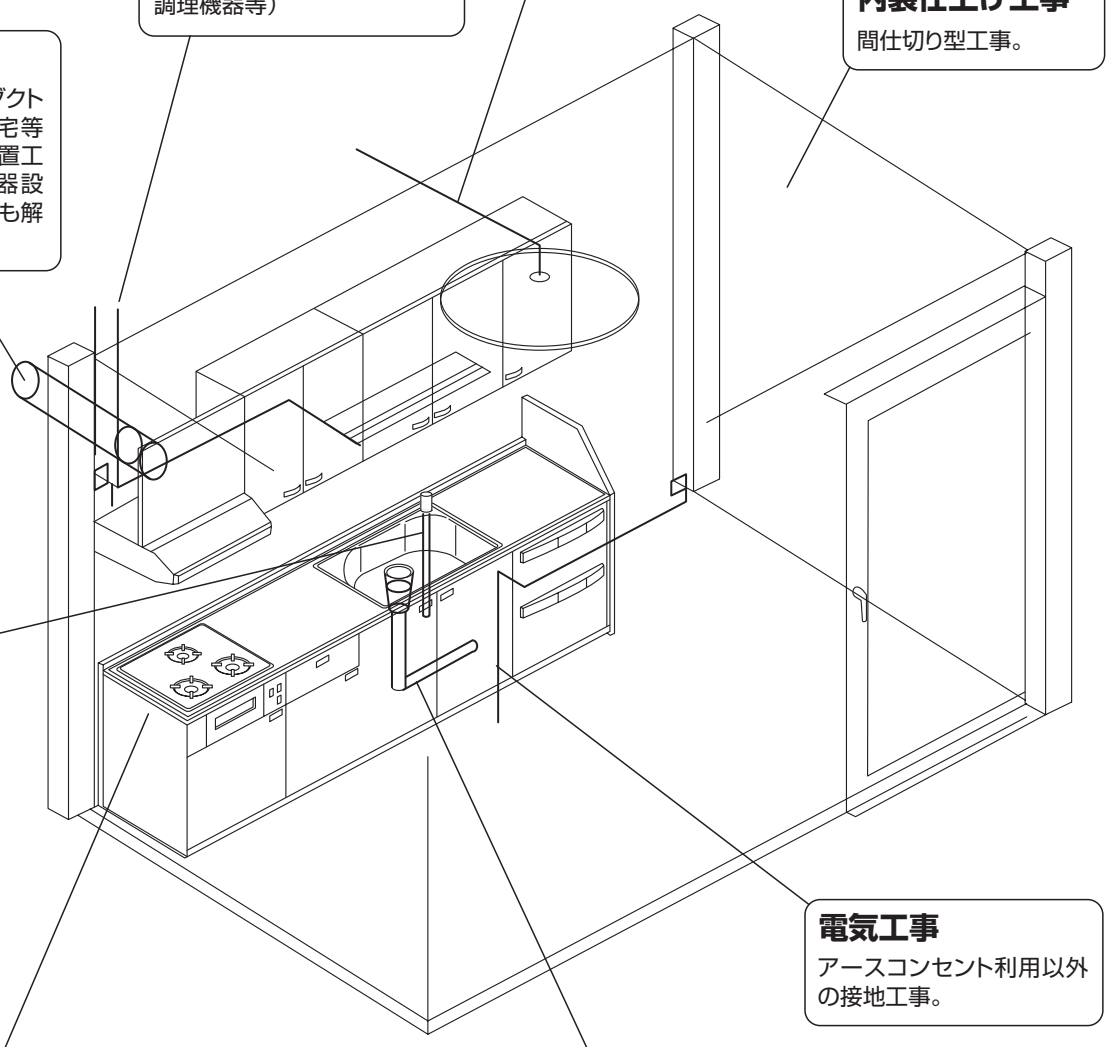


●システムキッチンの工事部分〈例示〉 ※新築の場合を想定

ユニット工事区分	区分	作業名称（区分）	建設業区分 大工工事業	建設業区分 管工事業	建設業区分 電気工事業	建設業外 ガス設備	建設業外 キッチン取付	作業内容
事前工事	大工 管	外壁の開口工事	○	○				レンジフードのダクト用の建築壁の穴あけ工事
		建築壁の下地処理工事	○					キャビネット等の取り付けのための壁下地処理工事
		排気ダクトの関連工事		○	○			建築物の事前ダクト配管等の工事
		キッチンパネル下地処理工事	○					キッチンパネルを貼る為の建築壁の下地処理工事
	電気	レンジフードの電源アース工事			○			建築の屋内配線と配線器具（コンセント）工事
		IHヒーターの電源アース工事			○			IHヒーター専用200Vの事前電気工事
		ウォールキャビネットの電気工事			○			屋内配線と配線器具（照明）接続、検査工事
		電動昇降機の電源工事			○			電動昇降機の専用電源・アース工事
		食器洗乾燥機の電源·アース工事			○			食器洗乾燥機用の専用電源・アース工事
	管	排水配管の立上工事		○				キッチン排水用の所定位置排水管立上工事
		給水·給湯配管立上工事		○				キッチン専用の所定位置配管立上工事
		食器洗乾燥機用給排水配管工事		○				食器洗乾燥機用の専用給水給湯排水事前工事
	ガス	ガス調理機器のガス配管				□		ガス機器用の事前ガス配管工事
キッチン本体取付設置	建設工事区分外	キッチンパネル取付					□	製品を加工して建築下地へ取り付け
		製品間のシリコン充填					□	製品間の隙間を仕上げる処理作業
		レンジフードの取付					□	本体及び化粧パネルを取り付ける作業
		ウォールキャビネット取付					□	所定の建築仕上げ壁へ取り付ける作業
		電動昇降ウォールキャビネット取付					□	電動昇降ウォールキャビネットを壁へ取り付ける作業
		ベースキャビネット·天板の取付					□	天板、キャビネットの組立・調整して設置する作業
		キッチン排水部品の組立					□	排水トラップ部品とシンクの組立
		水栓の組立·天板取付					□	水栓、浄水器同梱部材の組立（天板への取付）
		ビルトイン機器の取付					□	ビルトイン機器のキッチン本体への組込作業
		試運転、完成品検査（注記1）					□	完成後の試運転、性能確認検査
事前工事	電気	ウォールキャビネット照明器具工事			○			事前配線の電源線と照明器具の接続、検査
		電気配線器具の取付			○			スイッチ、コンセント等の電気配線工事
		レンジフードとダクト接続工事		○				建築ダクトとレンジフードの接続、検査
		その他電化機器の工事			○			電化機器と電源線、アースの接続工事
	ガス	ガス調理機器のガス管接続				□		ガス機器とガス配管の配管接続工事
	管	給水·給湯配管と水栓の接続		○				給水・給湯の一次側と水栓の接続、検査
		給水·給湯配管とオプション機器の接続		○				オプション機器と一次側給排水の接続、検査
		建築側排水管への接続工事		○				キッチン排水管と建築排水管の接続、検査

注記1） 製品の完成品検査、試運転は、事後工事完成後行う場合が多い。

工事区分



大工工事
吊戸棚設置のための下地工事等。

電気工事
コンセント利用以外の配線接続。（照明、レンジフード、電気調理機器等）

大工工事又は内装仕上げ工事
間仕切り型工事。

管工事
レンジフードからのダクト接続。なお、集合住宅等の場合、機械器具設置工事の中の給排気機器設置工事に該当するとも解釈される。

管工事
止水栓を含めた一次側給水接続。
資格なしで工事できるのは分岐水栓を利用した食器洗い乾燥機への附属ホースでの接続など。

電気工事
アースコンセント利用以外の接地工事。

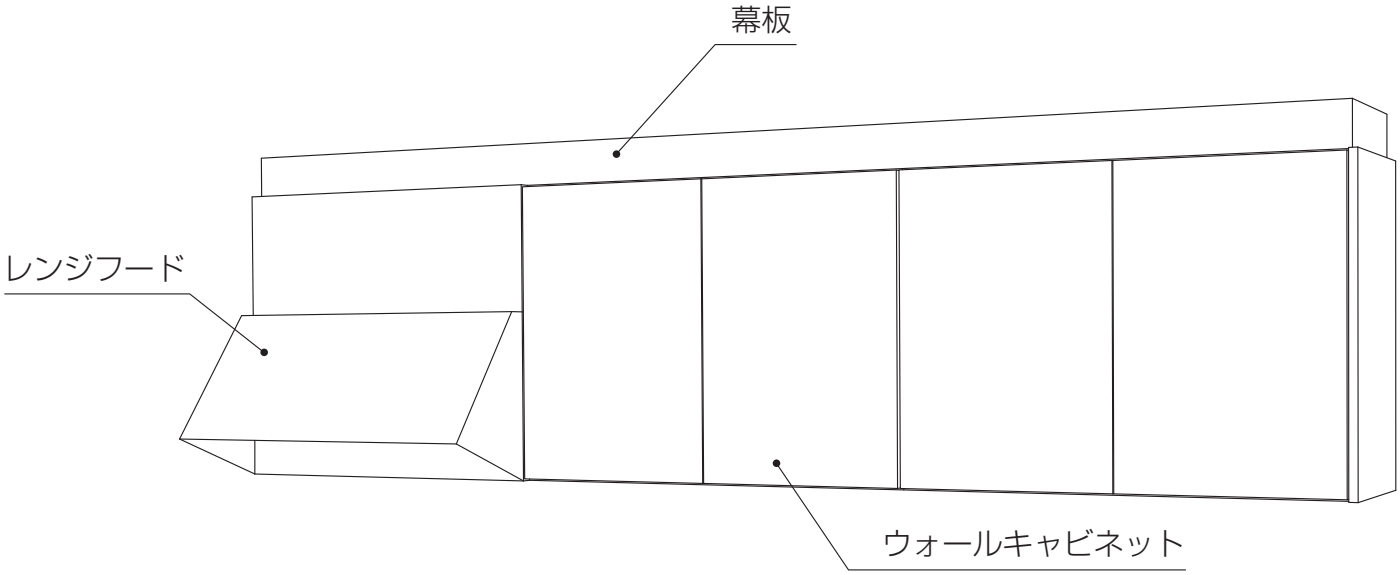
ガス可とう管接続工事監督者に委託
建設業法区分外であるが、ガス栓を含めた一次側配管工事。
なお、ガス機器の設置に関しては業界団体等で運営するガス機器設置技能資格制度に基づく資格「ガス機器設置スペシャリスト」で工事水準の向上が図られている。

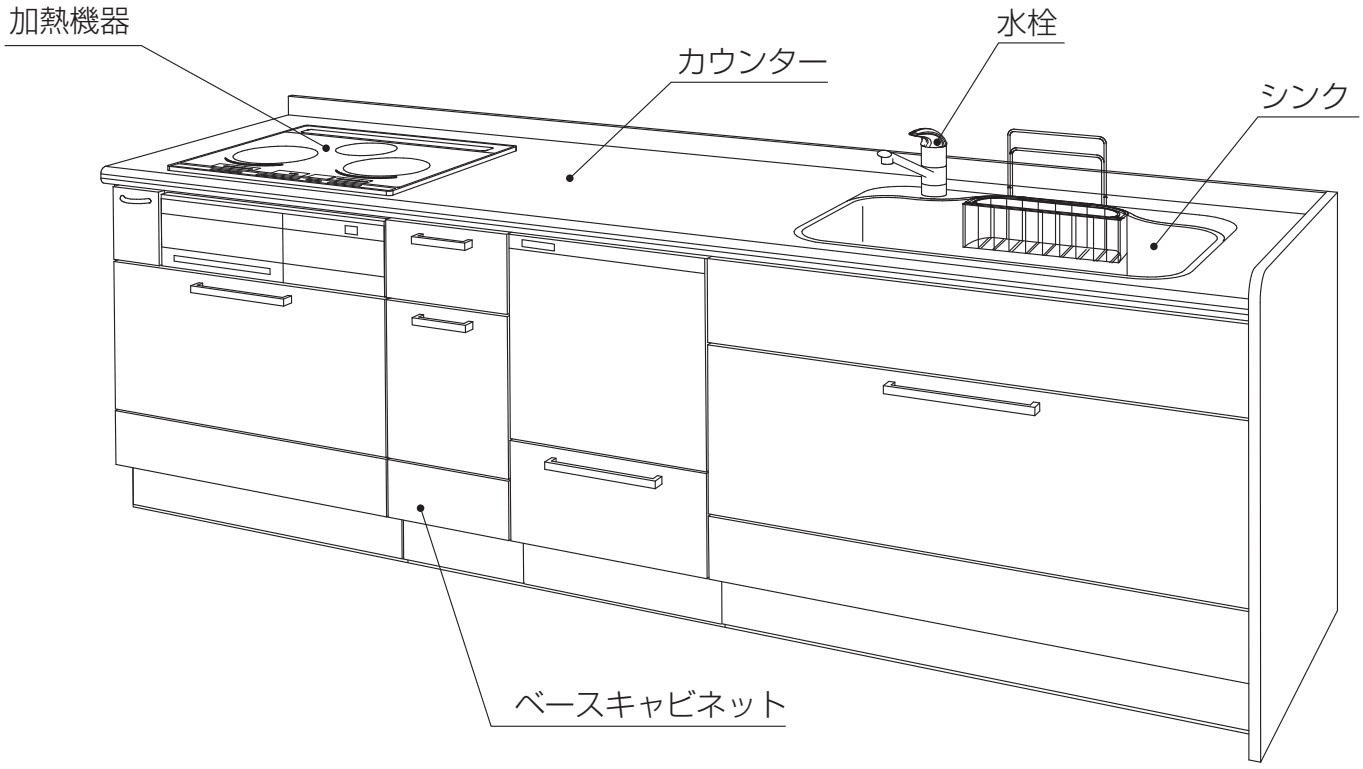
管工事
合流トラップからの排水接続。

※キッチンの取り付け・設置以外は、下記の資格等条件を有した者が工事をおこないます。

工事区分	資格等条件
電気工事	第一・二種電気工事士、電気主任技術者、建築設備士など
大工工事	一・二級建築士、建築大工「技能検定」合格者など
管工事	一・二級管工事施工管理技士、建築設備士、給水装置工事主任技術者など
内装仕上げ工事	一・二級建築施工管理技士、一・二級建築士、技能検定合格者

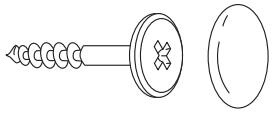
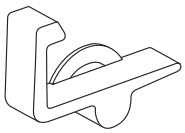
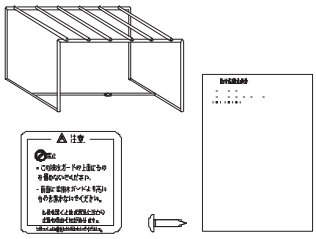
各部のなまえ

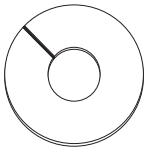
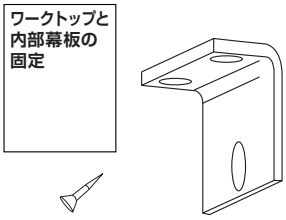
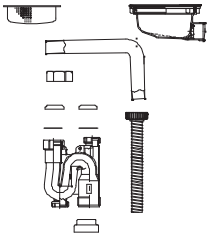
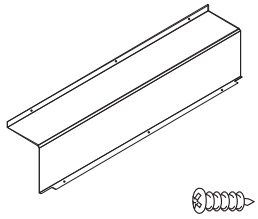




部品の確認

各カウンター・キャビネット内に、基本セットの取り付けに必要な部品を同梱しています。
取り付けを始める前に必ず確認してください。

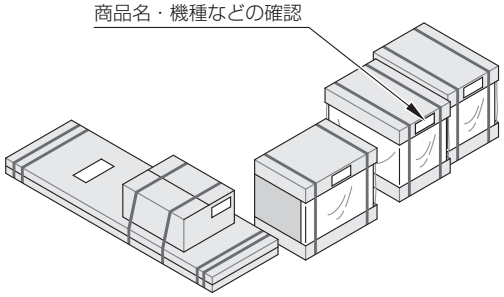
キャビネット･パネル連結ねじ	キャビネット壁面固定ねじ	棚受けダボ	部品箱(シンクキャビ内)
			排水トラップ棚ガード一式 
寸法：ジョイントスクリュー 4×28 (化粧キャップ付)	寸法：皿コースレッド 4.5×65 (化粧キャップ・ワッシャー付)		棚ガード本体 取付設置説明書・注意シール 取付ねじ 寸法: トラス 3.5×12 1本
ベースキャビネット　6本	ベースキャビネット　2本		
ウォール・アッパーキャビネット　4本	ウォール・アッパーキャビネット　4本	数量：4個／棚板1枚	1箱

シーリングプレート	袋づめ	部品箱(ワークトップに同梱)	配管カバー
	ワークトップと内部幕板固定部材 	各シンク用　排水トラップ部品 	
	取付説明書･固定金具･取り付けねじ 寸法：皿 3.5×12　3本		配管カバー本体 寸法：トラスタッピング　4×12
			キャビネット間口　600以上　6本
1個	1袋	1箱	キャビネット間口　600未満　4本

取付設置をする前に

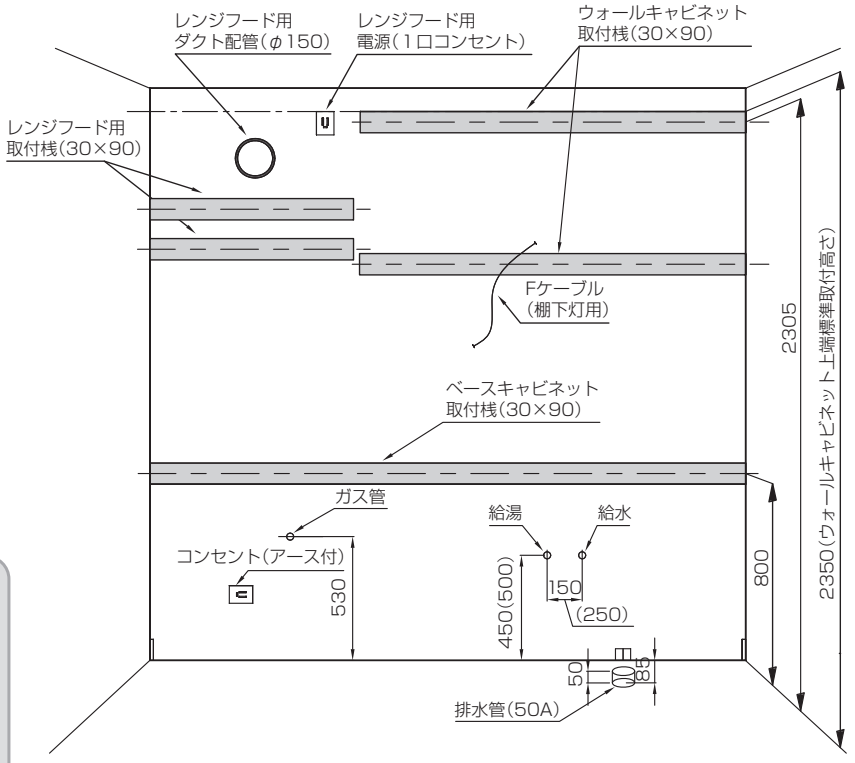
部材の確認

●注文した商品の品番・数量を確認する。
●開梱前に包装材など外観に破損がないか確認する。
●開梱後は商品に傷・破損がないか確認する。



設置場所の確認

●取付設置図面通りに、下地･木さん･給排水管・コンセント・電源線・ガス管・ダクトなどの工事が完了していることを確認する。
※修正が必要なものは、修正工事依頼をすること。



(例) I 型キッチン（シンク右配列 / ワークトップ高さ 850mm/ ウォールキャビネット上端取付高さ 2350mm)

調理器具・レンジフード・レンジフード用ダクトは取り付け面の不燃指定や可燃物との離隔距離が火災予防条例で定められています。
※詳しくは所轄の消防署で確認してください。

【壁面取り付け桟位置の確認】

⚠ 警告

必ずおこなう

●壁面に木下地が強固に固定されていることを確認する。
●木下地はくさりのない木材をご使用ください。(大工工事)
木下地の取り付けが不完全な場合、ウォールキャビネットが落下してけがをします。

【建築壁について】

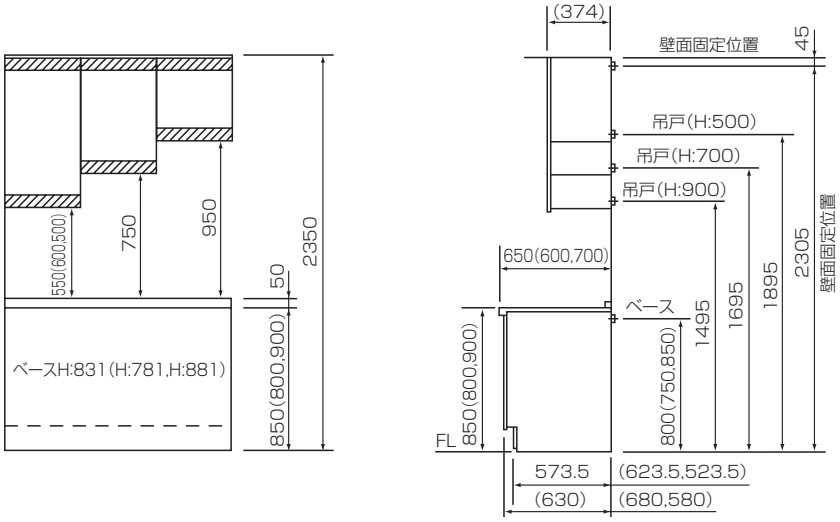
●同梱の壁固定ねじは、吊戸棚本体と木下地の間に 12.5 ㎜の不燃材を想定しています。
建築壁には、かならず下地桟（厚さ 30 ㎜以上）を取り付けてください。(大工工事)
●建築壁には代表的なものとして以下の種類があります。

木　質　壁	軽量鉄骨壁	ＡＬＣ壁	ＲＣ壁

【下地棧の取り付け寸法と取り付け要領】

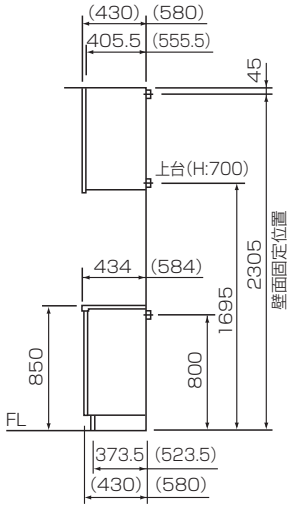
●キッチン

（下図はカウンター高さ850の場合の寸法です。）

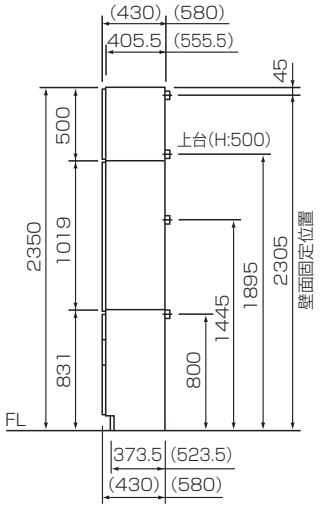


●収納庫

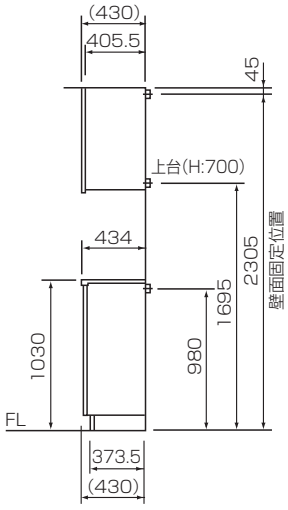
ウォールタイプ



トールタイプ

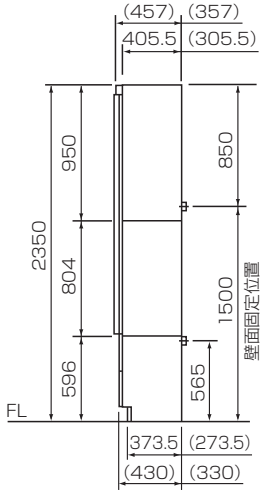


ハイカウンタータイプ

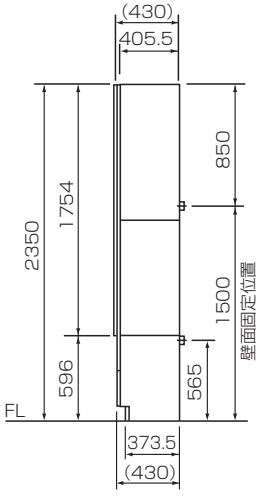


●大型収納庫

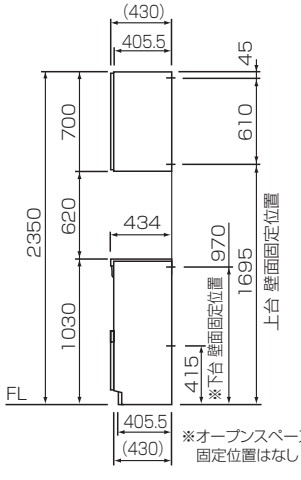
引戸タイプ



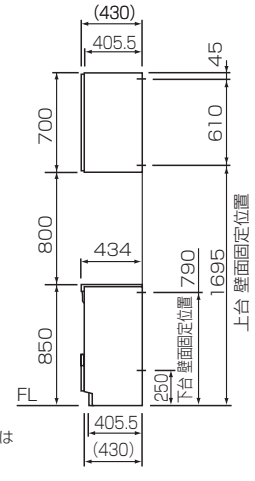
開き戸タイプ



●家電収納庫



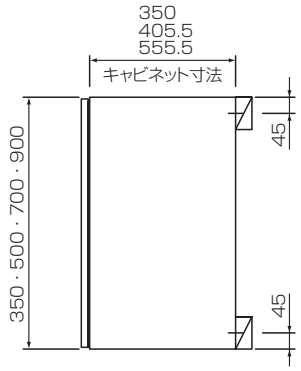
※オープンスペースの場合は固定位置はなし



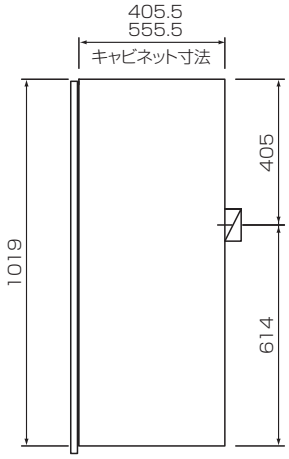
【下地桟の取り付け寸法と取り付け要領】

吊戸棚･収納庫（上台･中台）壁面取り付け位置詳細

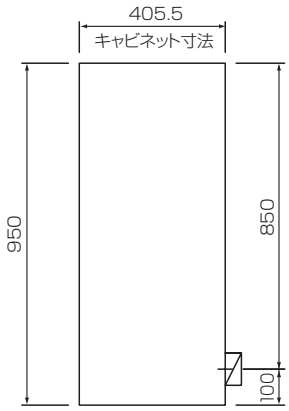
吊戸棚
収納庫用アッパーキャビネット（上台）



収納庫用ミドルキャビネット（中台）



大型収納キャビネット（上台）



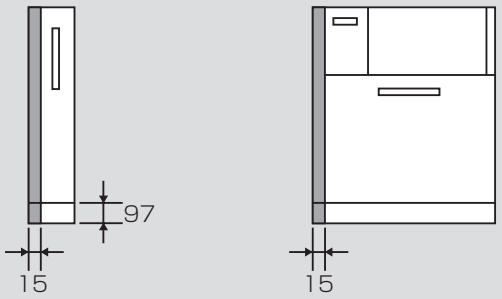
取付設置をする前に

●設置場所の寸法(間口･高さ)および床の仕上がりを確認する。
※壁一壁間に設置する場合は、キッチン寸法+10mm以上あること。
※床は仕上がっていること。

●ドア枠･窓枠･巾木が引き出しや扉等と干渉しないことを確認する。

横壁ありプラン用に、見切対応キャビネットを品揃えしています。

【調理キャビネット】　【加熱機器キャビネット】



図で商品を確認し、ドア枠や巾木と干渉しないことを確認してください。

扉・引き出しの取り外し

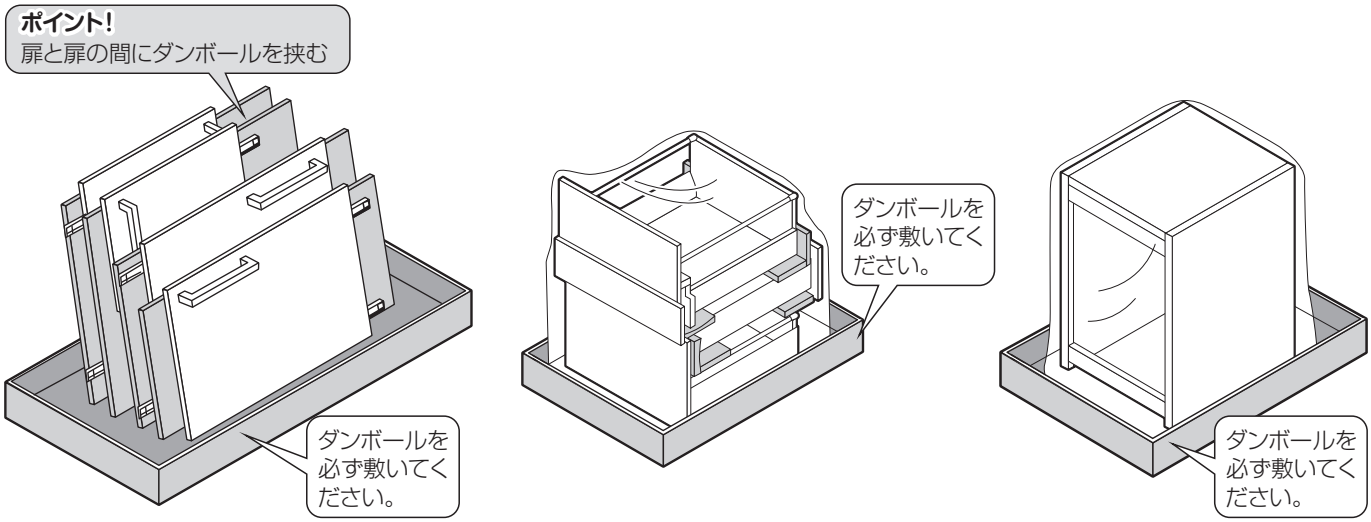
扉および引き出しを傷つけないように、開梱後すぐに取り外し、直射日光の当たらない所に出来るだけ1ヶ所にまとめて保管してください。

【扉・引き出し・キャビネットの養生方法】

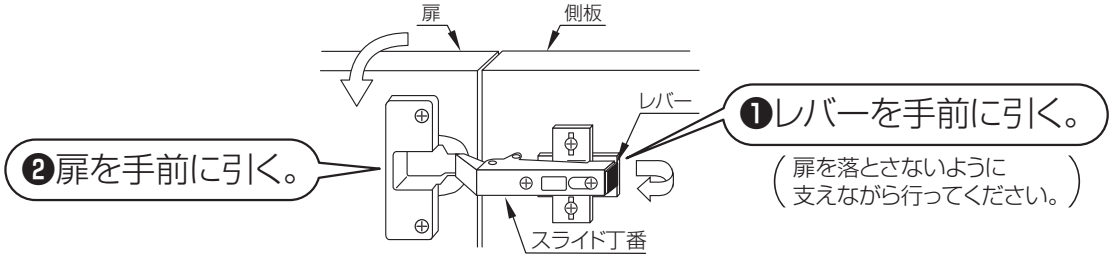
〈扉の場合〉
立掛けて保管するときは、必ず取っ手を上にしてください。

〈引き出しの場合〉
積み重ねて保管するときは、互い違いにしてください。

〈キャビネットの場合〉
ウォールキャビネットの底面を床に直接置かないでください。



【扉の取り外し方法】



取付設置をする前に

下準備と確認

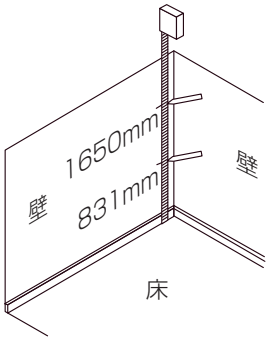
床・壁面・天井の直角と水平・垂直を確認してください。

●水平・垂直基準の精度がでていないと、最終仕上がりが悪くなり安全性にも影響します。
正確に基準線を設定してください。

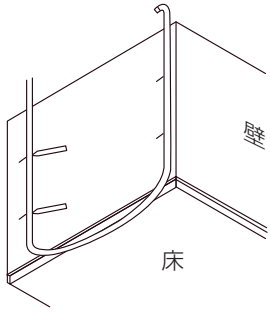
①水平基準の設定

水盛り管・水準器などを用いて、各壁面にウォールキャビネットの下端面、ベースキャビネットの上面の基準点を2～3ヶ所取り、各基準点間に墨壺を用いて水平基準線を引いてください。

※床の一番高い所を基準としてください。



レイアウト図を参考に床面からキャビネットの下端の基準寸法を出す。

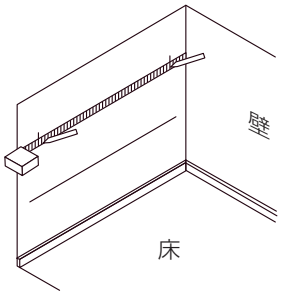


水盛り管・水準器を用いて基準点を出す。

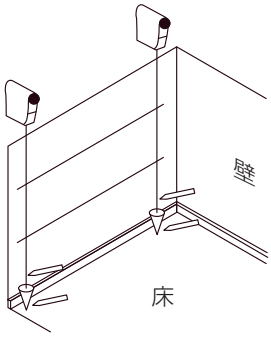
※上記基準寸法はカウンター高さ850およびウォールキャビネット高さ700の場合。

②垂直基準線の設定

下げ振りを用いて壁面の角部と、取り付けキャビネット左右端の上下に基準点を取り、基準点間に墨壺を用いて水平基準線を引いてください。



レイアウト図を参考に角部からキャビネットの左右の基準寸法を出す。



下げ振りを用いて壁・床面への基準点を出す。

キッチンパネルの取り付け

キッチンパネルがある場合は、キャビネットの取付前にキッチンパネルを取り付けてください。
取り付け方法はキッチンパネル用接着キットに付属の組立・設置説明書を参考にしてください。

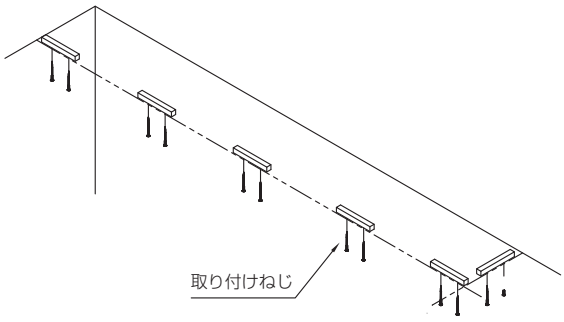
ウォールキャビネットと天井幕板の取り付け

天井幕板固定桟の取り付け（天井幕板を取り付ける場合）

※天井幕板のつかないレイアウトもあります。

天井面に天井幕板固定桟をねじで取り付けてください。
（固定桟および取り付けねじは現場調達）

キャビネット壁固定前に取り付けてください。



フードの取り付け

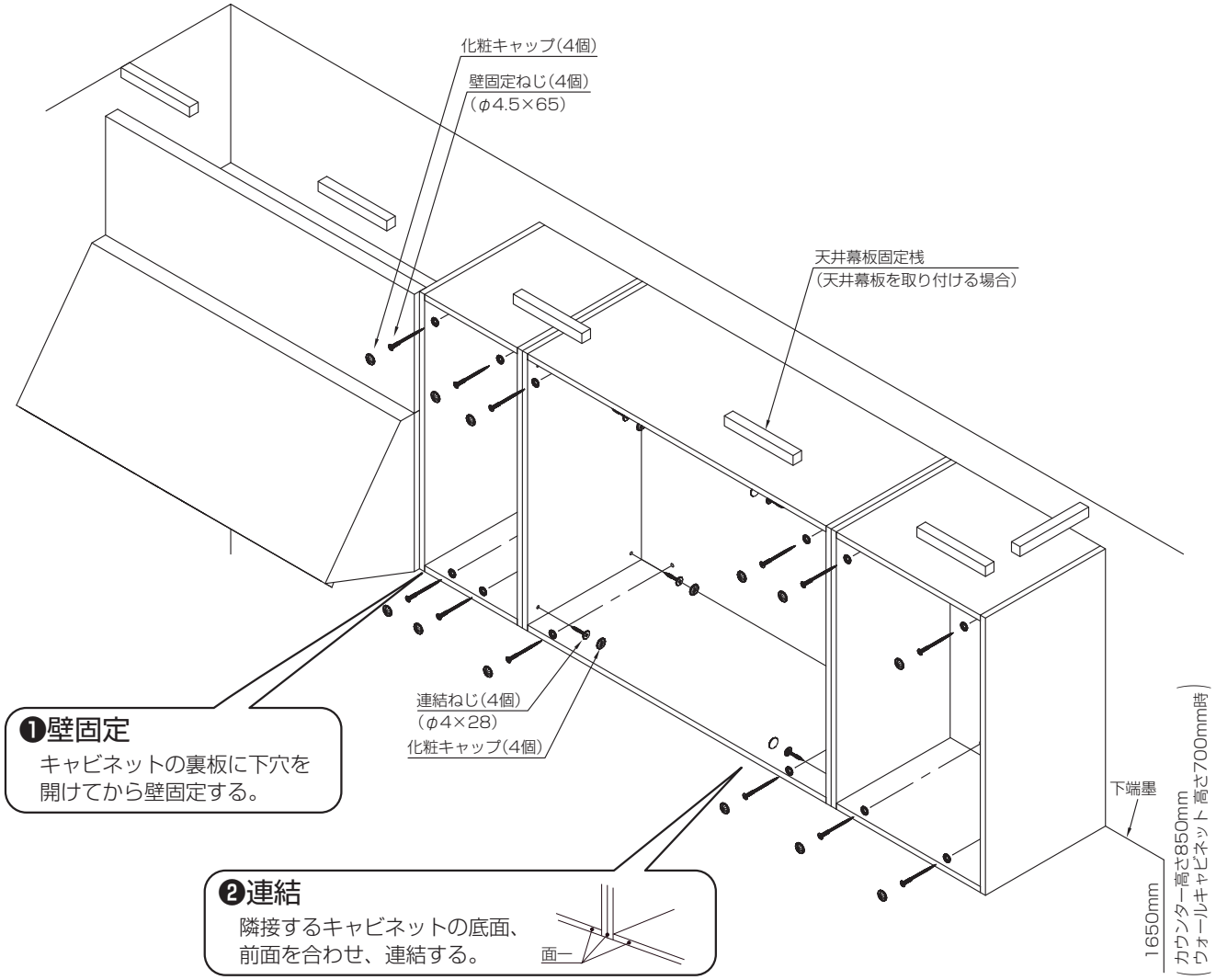
⚠ 注意

必ずおこなう

機器に付属の取付・設置説明書・本体の注意表示を必ず確認し、正しい取り付けを行う。
取り付け方法を誤ると、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。

ウォールキャビネットの取り付け

キャビネット下端墨に合わせて、次の要領にて取り付けてください。

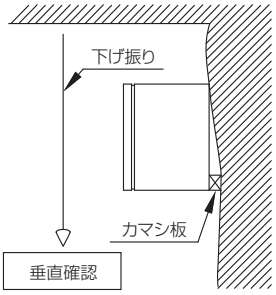


ウォールキャビネットと天井幕板の取り付け

ウォールキャビネットの取り付け（続き）

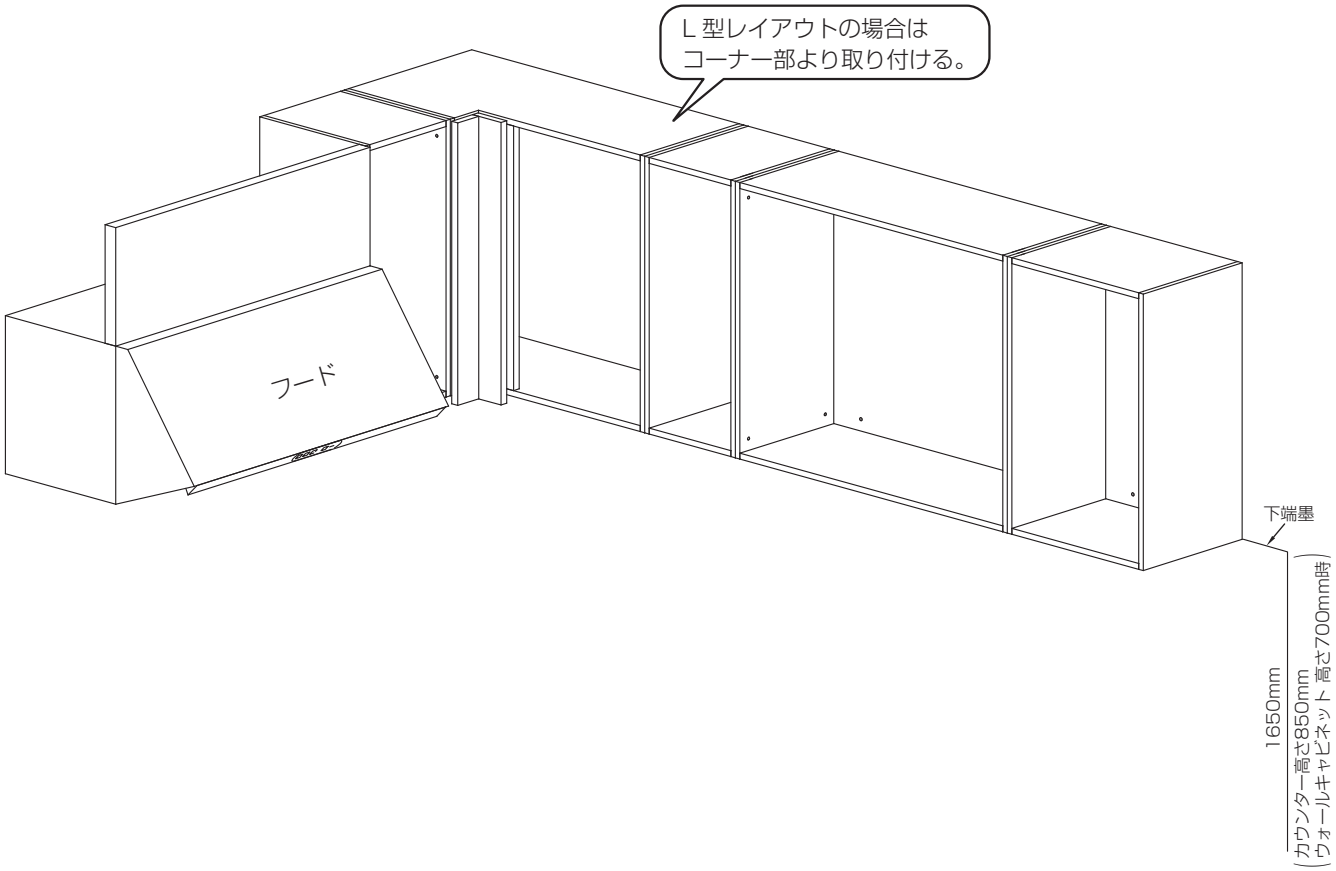
取り付け上のご注意

ウォールキャビネットを取り付ける壁面に凹凸がある場合は扉に段違いが生じますので、下図のように下げ振りなどで垂直確認を行い、カマシ板（現場調達）などで調整を行ってください。



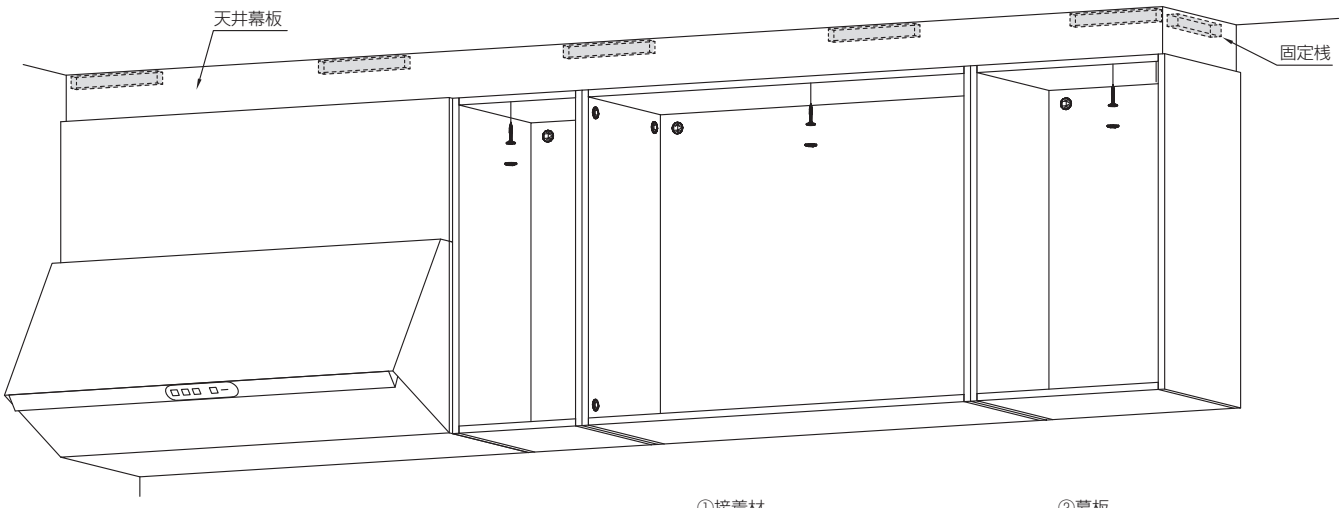
【L 型レイアウトの場合】

コーナー部より取り付けてください。



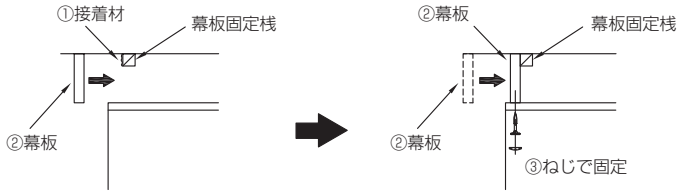
ウォールキャビネットと天井幕板の取り付け

天井幕板のカットと取り付け

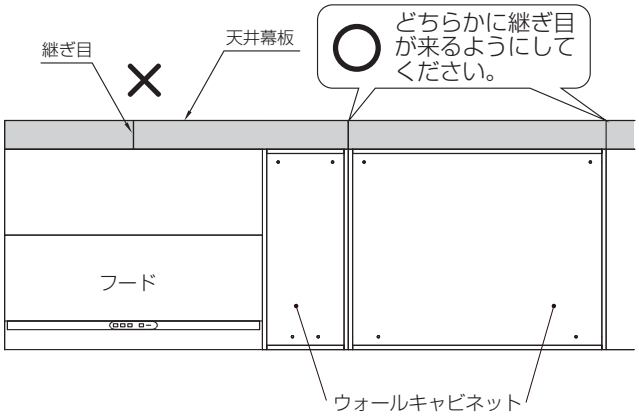


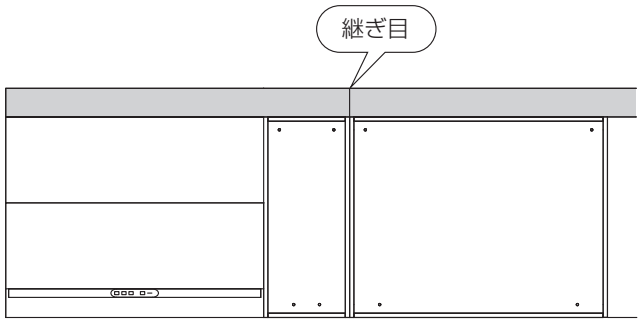
〈幕板の取り付け方法〉

①幕板固定桟の幕板取り付け側に接着剤を塗る。
②幕板がウォールキャビネットの上に垂直にのるようにして、
　上部を幕板固定桟に貼り合わせる。
③ウォールキャビネットの天板内面より、ねじで固定する。
　（取り付けねじは現場調達）



※フードからは、天井幕板に固定できないため、天井幕板の継ぎ目がフードの上に来ないようにしてください。

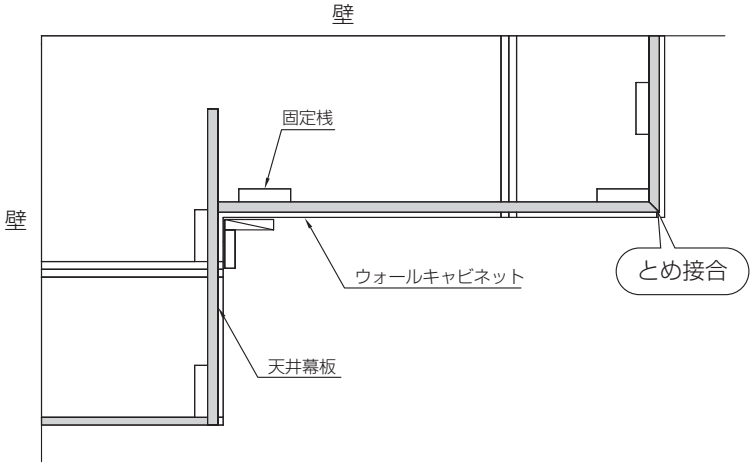




※天井幕板の継ぎ目はウォールの扉に合わせると、きれいに仕上がります。

天井幕板コーナー部および端面部の処理

端面部は下図の突き合わせ接合または、とめ接合で仕上げてください。



ウォールキャビネットと天井幕板の取り付け

フードのみ（ウォールキャビネットなし）の場合

①角材の取り付け

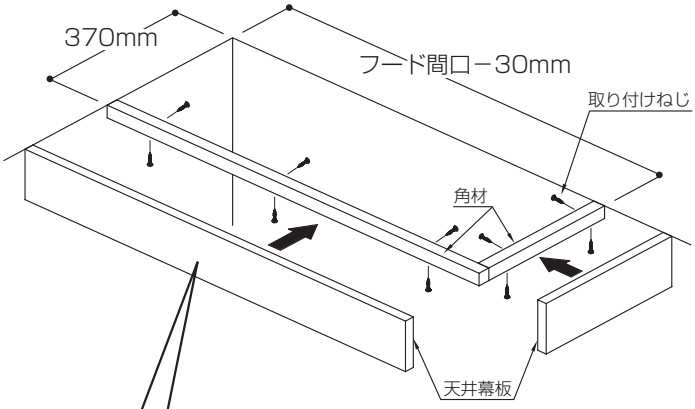
天井面に角材（垂木材、現場調達）を取り付けてください。

※野縁にねじ止め。

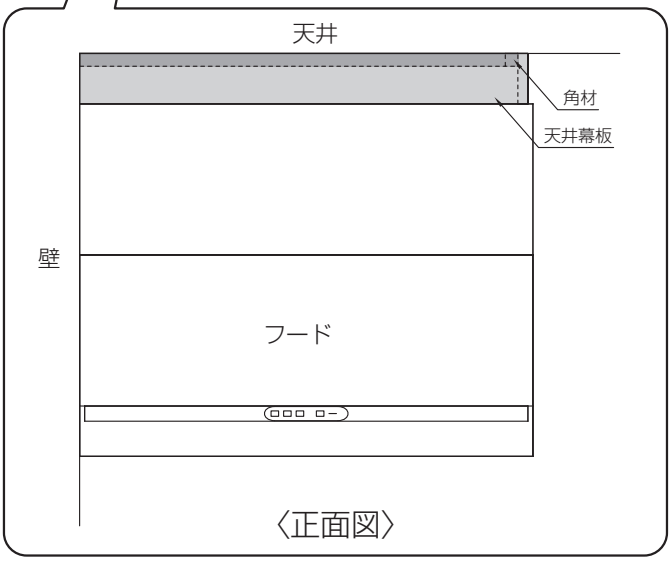
必ずフード設置前に取り付けが必要です。

②天井幕板の取り付け

天井幕板を取り付けねじと接着剤(現場調達)で取り付けてください。



※図はフード左側が壁の場合



〈正面図〉

⚠ 注意

必ずおこなう

天井面への角材取り付けおよび角材への天井幕板取り付けは確実に取り付ける

確実な取り付けを誤ると天井幕板が落下してけがをするおそれがあります。

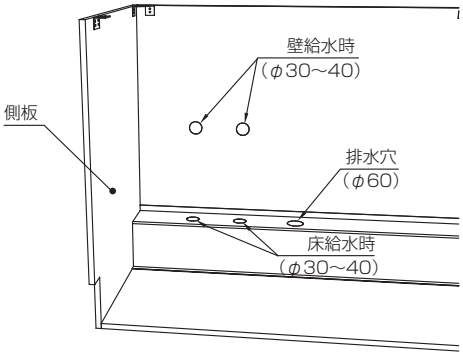
ベースキャビネットの取り付け

配管用穴あけおよび側板切り欠き

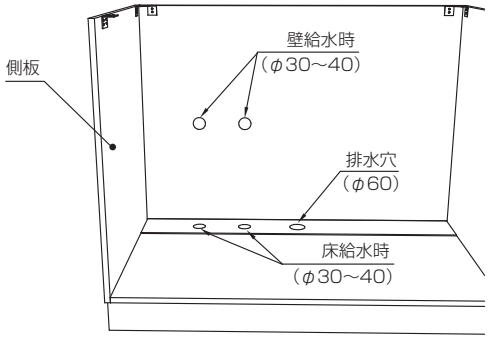
①穴加工

位置は現物合わせをして決めてください。

〈配管スペースありシンク用キャビネットの場合〉

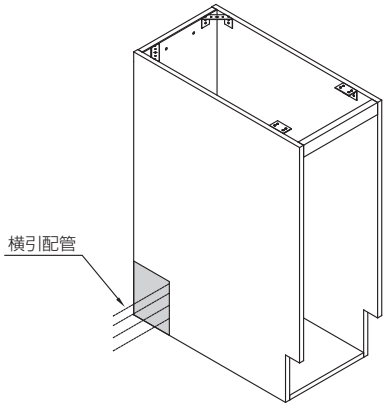


〈配管スペースなしシンク用キャビネットの場合〉



②側板の切り欠き

横引配管の場合は、配管が通るキャビネットの側板を切り欠いてください。

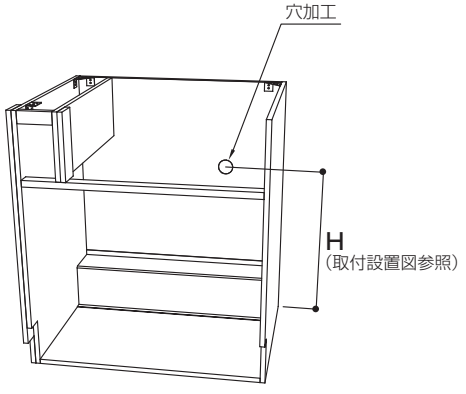


③配管用穴加工

コンロ用キャビネットにガス配管用・電気配線用の穴加工をしてください。

※配管・配線位置については、取付設置図および設置場所を確認してください。

※IH などの調理機器についてはキッチン取り付け後、2極接地コンセントを取り付けてください。（電気工事）



⚠ 注意

必ずおこなう　機器に付属の取付・設置説明書および本体の注意表示を確認し、穴加工をしてください。

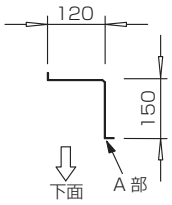
ベースキャビネットの取り付け

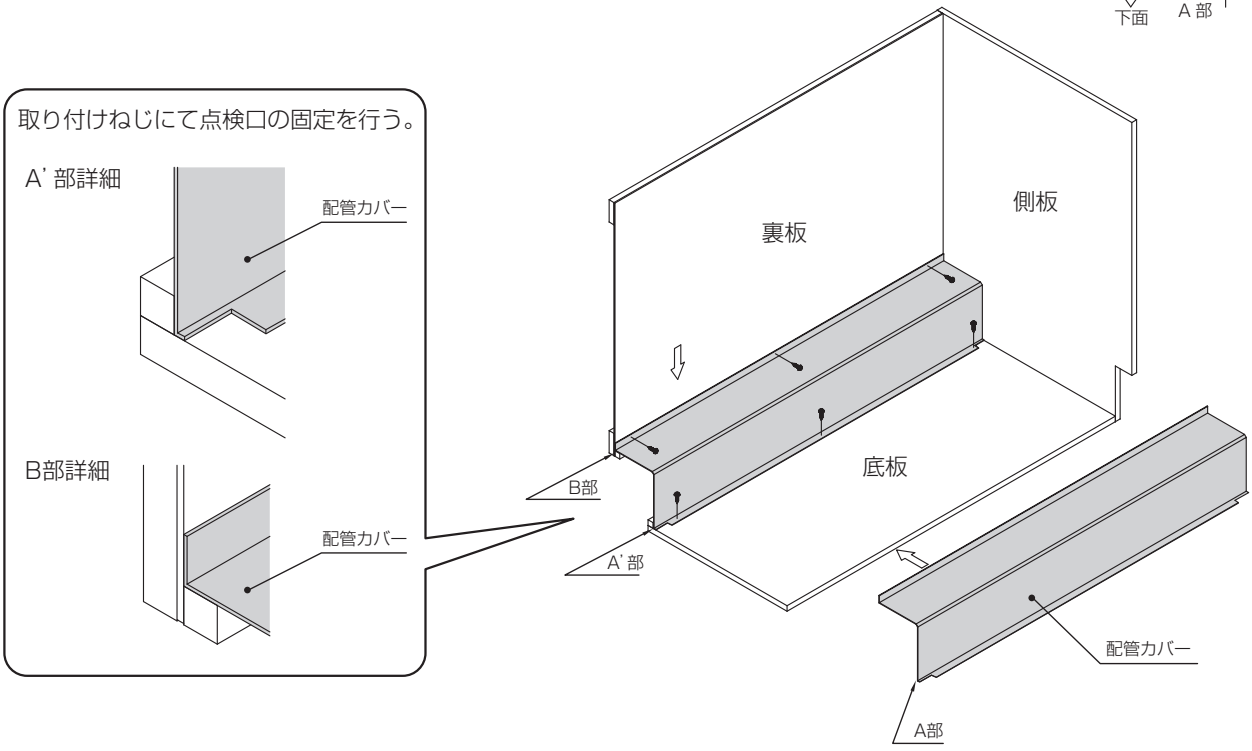
配管カバーの取り付け

【配管スペースありシンク用キャビネットの場合】

① 同梱のねじと配管カバーを準備し、配管カバーをキャビネットにセットする。
このとき、寸法を確認して上下が正規の位置にくるようにする。（図１）
② 配管カバーA部とキャビネット側の A’ 部の角が合うように手前からスライドさせ密着させる。
B部の補強桟に配管カバー上部が乗っていることを確認する。
③ ねじで配管カバーをとめる。

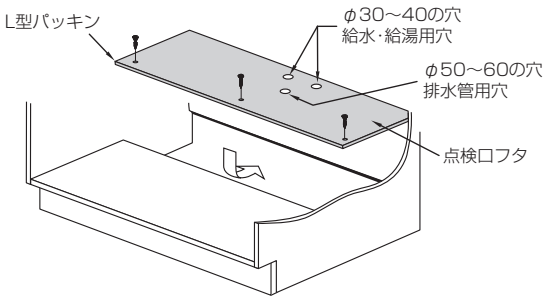
図１. 配管カバー



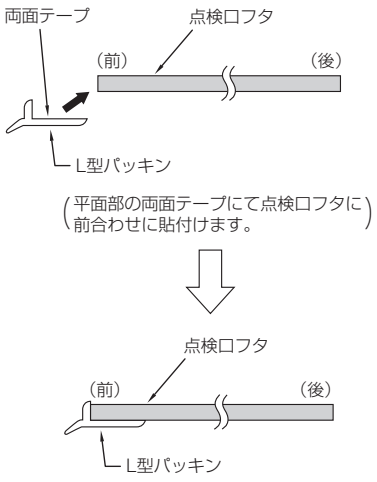


【配管スペースなしシンク用キャビネットの場合】

化粧台に引き込む為に点検口フタにφ30～40の穴を
２ヶ所φ50～60の穴を１ヶ所ホルソー等であけます。



※L型パッキン平面部の両面テープ保護紙を取り、点検口フタに前合わせにて貼り付けます。
排水管･給湯水管用に穴を開け、キャビネットの背板部の溝に合わせ同梱の取り付けねじで固定してください。

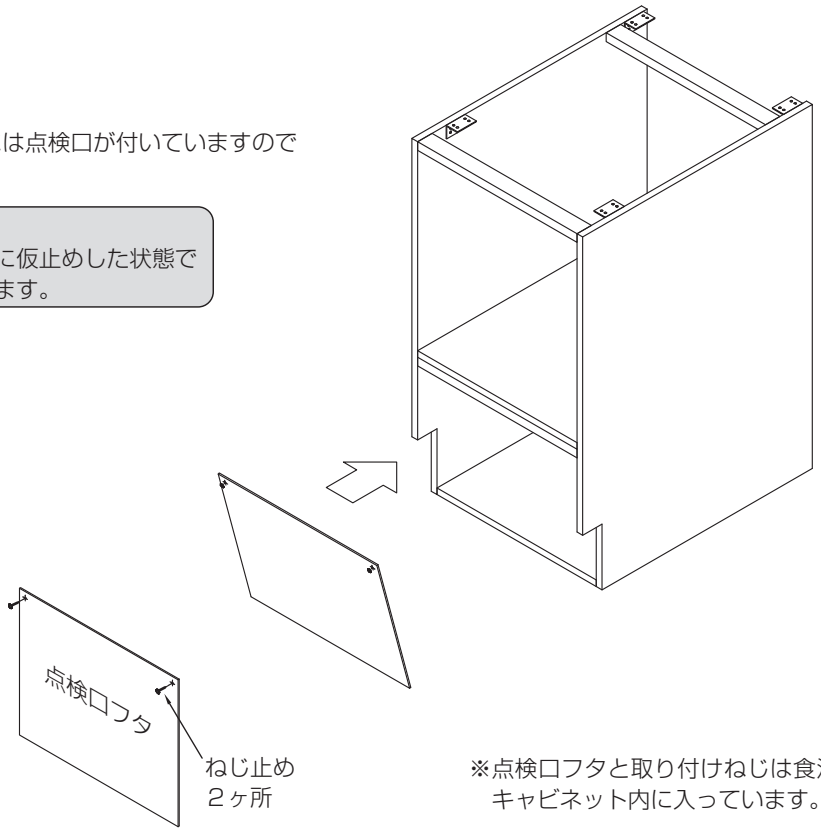


ベースキャビネットの取り付け

【食器洗い乾燥機組込みキャビネットの点検口取り付け】

※食洗機組込みキャビネットには点検口が付いていますので
配管接続後取り付ける。

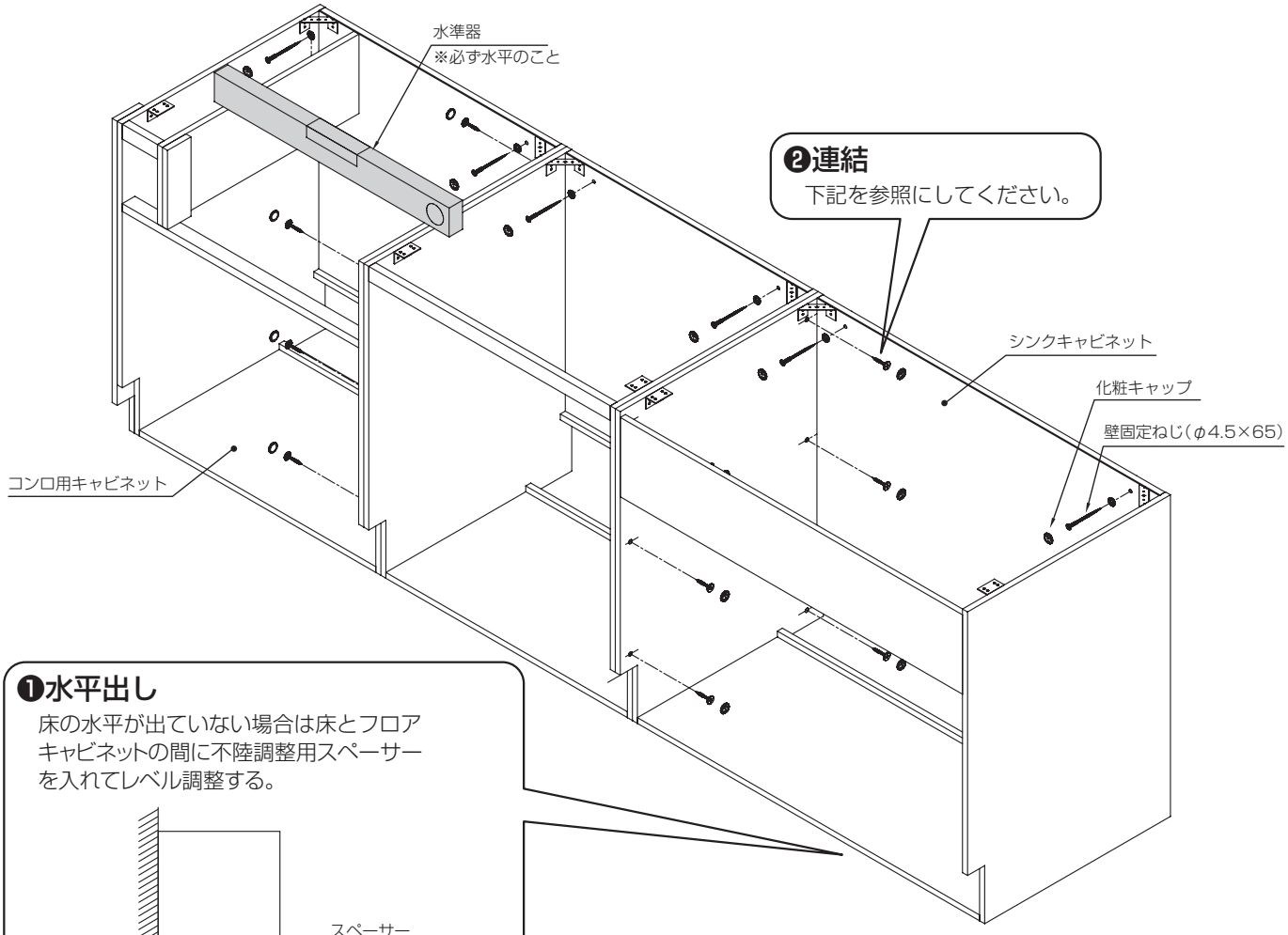
ポイント!
取り付けねじを点検口フタに仮止めした状態で
行うと作業がしやすくなります。



※点検口フタと取り付けねじは食洗機組込み
キャビネット内に入っています。

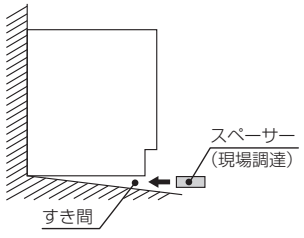
ベースキャビネットの取り付け

ベースキャビネットの取り付け



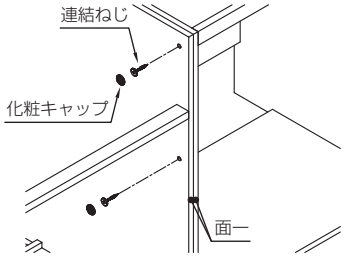
❶水平出し

床の水平が出ていない場合は床とフロアキャビネットの間に不陸調整用スペーサーを入れてレベル調整する。



❷キャビネット同士の連結

キャビネット前面および上面を合わせ、キャビネットに付属している連結ねじ(φ4×28)で連結してください。

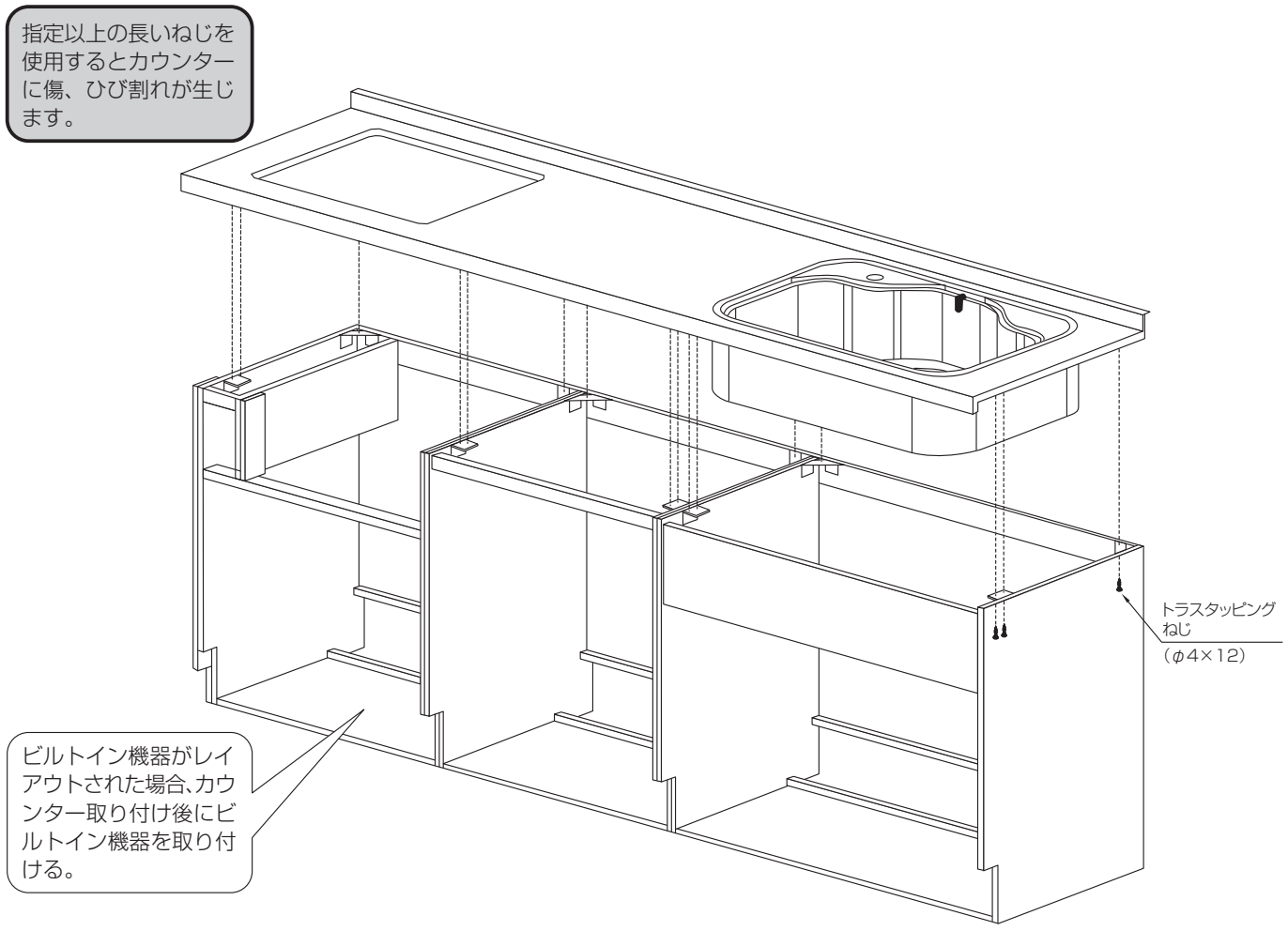


※L 型レイアウトの場合は、コーナーキャビネットから設置します。

カウンターの取り付け

カウンターの固定

①カウンターをベースキャビネットにのせ、取り付け位置を確認後、ベースキャビネットの内側からトラスタッピングねじ(φ4×12)で固定してください。



②カウンター固定は各キャビネットの両側板に取り付けられているＬ金具を使用します。

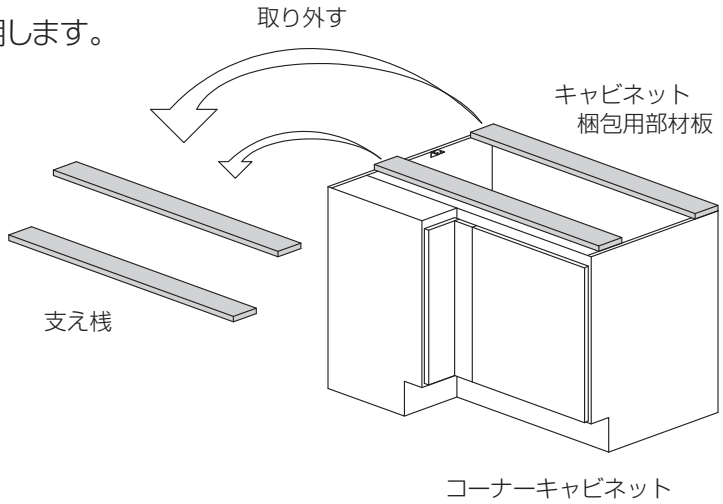
カウンターの取り付け

【L 型カウンター用 支え桟の取り付け】

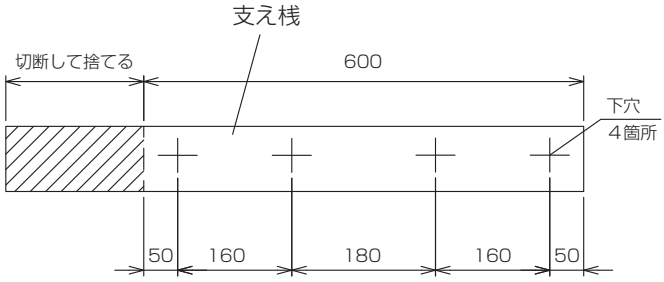
①キャビネット梱包用部材板を支え桟として使用します。

⚠ 注意

キャビネット梱包用部材板の金属片を取り除いてください。



②支え桟を 600mm の位置で切断して下穴をあけてください。



③支え桟を壁に固定します。（使用ビス　皿木ねじφ3.8×45　8本）

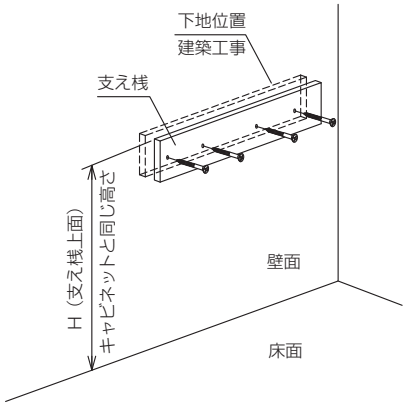
⚠ 注意

支え桟を取り付けるための、下地を確認してください。

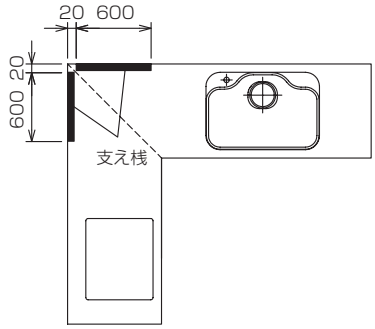
桟の取り付け高さ

カウンター高さ	H 寸法
800	781
850	831
900	881

(mm)

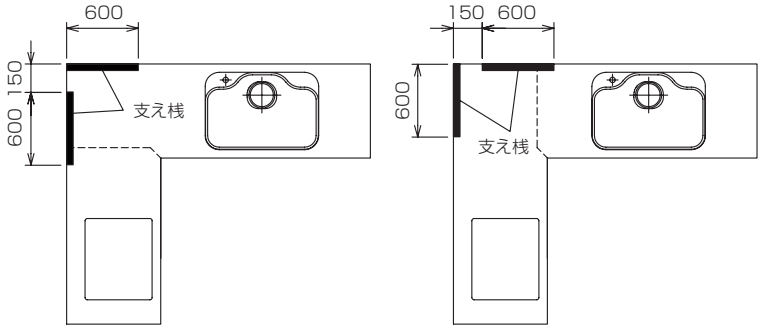


45°カットの場合



上図の位置の壁面に固定してください。

Jカットの場合



上図の位置の壁面に固定してください。

カウンターの取り付け

人工大理石カウンターの場合

【人工大理石カウンターの接合】

人工大理石カウンターの接合面(ジョイント面)の汚れをよく拭き取ってください。汚れが残っていると、仕上がりが悪くなります。

（1）接合剤の調合撹拌

⚠ 注意

カウンターに合った接合剤を使用してください。他の接合剤を使用すると接着しません。

同梱品です。

接合剤の調合は必ず本文通りに行ってください。

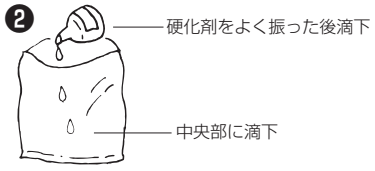
方法を誤ると硬化せず、接着できません。

❶硬化剤の滴下数は室温により変化します。

滴下数は接合強度、硬化時間、黄ばみなど出来栄えに大きく影響しますので、同梱の配合表に従ってください。

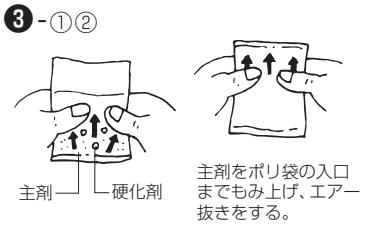
❷硬化剤の滴下

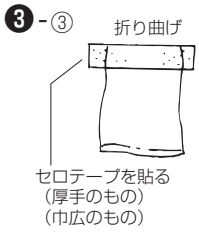
①寒い時は、硬化剤の入った容器をポケットに入れるなどして暖めてください。
②硬化剤の入った容器を、振って撹拌してください。
③室温に応じ、ポリ袋に硬化剤を滴下します。



❸主剤入れとエアー抜き

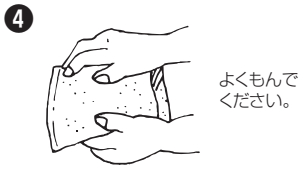
①主剤を全量ポリ袋内側にはわせるように流し込みます。（エアー入り防止）
②主剤をポリ袋の口元までもみ上げ、ポリ袋内のエアーを抜きます。
③口元を折り曲げ、セロテープで密封します。





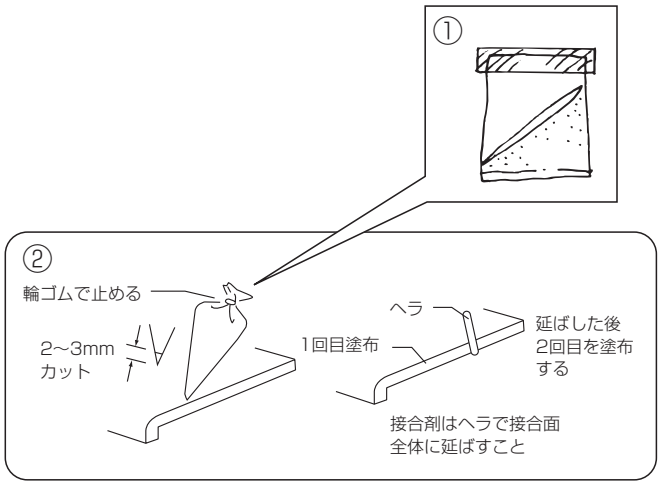
❹撹拌

夏３分間、冬期は５分間押しもみを行い、主剤と硬化剤を撹拌混合します。撹拌時には、両手で上下、左右に押しもみをし、硬化剤が全体にまじるようにします。



カウンターの取り付け

【人工大理石カウンターの接合（続き）】



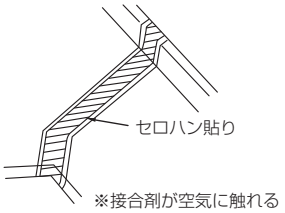
(2) 接合剤の塗布

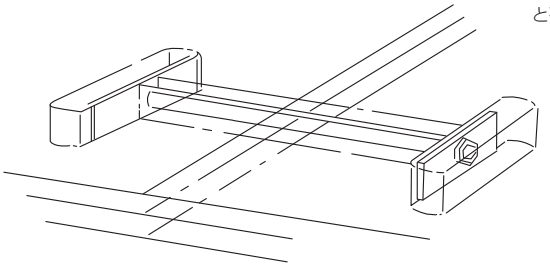
①ポリ袋内の接合剤をポリ袋の下の角に寄せます。
②撹拌した接合剤を図のように口元を輪ゴムで止めます。
③先端コーナーをカットし、吐出口を作ります。
④接合面の上角部に接合剤を塗布します。
⑤一面は塗布した接合剤をヘラで均一に延ばします。その後、再度上角部に接合剤を塗布してください。この作業を行なわないと、接合面にヒケが生じます。
注：合板下地部分には接合剤を塗らないでください。合板下地のあくが接合部に浮き出てくるおそれがあります。

(3) カウンターの接合

①カウンターを正規の位置にセットします。
②平面部にはみ出した接合剤の上にセロハンを貼ります。
③左右カウンターのレベルを合わせます。レベル出しをしておかないと、不完全な場合、仕上げが困難となりますので注意深く調整してください。高さ調整終了後、ボルトを締付けます。
④硬化時間は夏：45分～1時間、冬：半日程度必要になります。

※セロハンの貼り残しがあると、その部分の接合剤が硬化しません。ご注意ください。





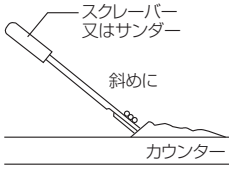
(4) カウンターの仕上げ

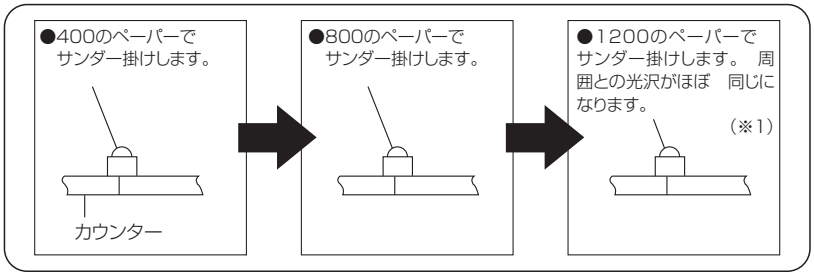
⚠ 注意

必ずおこなう

安全メガネ・マスクを着用して作業してください。
硬化した破片が飛び、目・口などに入る恐れがあります。

①接合部の硬化した接合剤をサンダー、スクレーバーで平滑にします。(事前にマスキングテープをはがします。)
特にサンダーでの仕上げが適します。
●スクレーバーで除去する時は、カウンター表面に喰い込み傷をつけやすいので注意してください。
②接合部が平滑になったら、最終仕上げは右の順序で仕上げます。





(※1)接合部とその両脇を2000のペーパーでサンダー掛けし、仕上げにコンパウンドワックスで周囲とほぼ同じ光沢になるまで磨きます。

カウンターの取り付け

コーリアンカウンターの場合

コーリアンカウンターの取り付けに際しては別冊の「設計 / 加工 / 施行ガイド」を併せてご覧頂き、正しく取り付けてください。

⚠ 注意

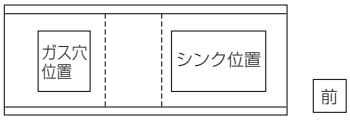
禁止

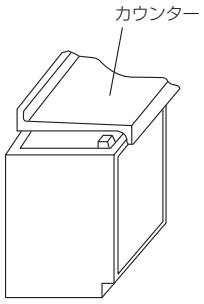
コーリアンカウンターへは絶対にねじ止めをしないでください。

カウンターが割れます。

【コーリアンカウンターの設置】

①カウンター固定用キャビネットはカウンターを乗せる前に側板へシリコーンコーキング剤を塗布します。
②カウンターの接着面のホコリ・油・水をよくとり去ります。
③カウンターを乗せ、セットします。



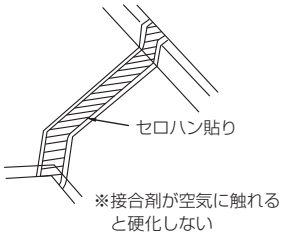


（1）接合剤の調合撹拌（2）接合剤の塗布 については、前ページの人工大理石カウンターの項をご覧ください。

（3）カウンターの接合

①カウンターを正規の位置にセットします。
②平面部にはみ出した接合剤の上にセロハンを貼ります。
③左右カウンターのレベルを合わせます。レベル出しをしておかないと、
不完全な場合、仕上げが困難となりますので注意深く調整してください。

※セロハンの貼り残しがあると、
その部分の接合剤が硬化しません。
ご注意くださ い。



（4）カウンターの仕上げ

研磨、仕上げの順序として必ず、次のことを守ってください。
サンドペーパーの使用順序
粗仕上げ：#100～#150
中仕上げ：#240～#320
最終仕上げ：#400 またはナイロンたわし
（ソリッドカラーの場合）
：#600 またはナイロンたわしで軽く
（シエラ、モンタナの場合）
中仕上げを省略しますと粗仕上げの跡が最後まで残りきれいに
仕上がりませんので、省略しないで仕上げてください。

収納庫キャビネットの取り付け

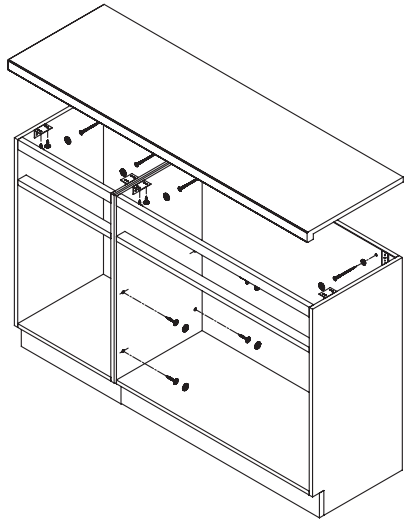
【収納庫用カウンターの取り付け・設置】

（1）キャビネットの連結

●隣のキャビネットと前面及び上面を併せて付属のジョイントスクリューでキャビネットを連結し、カウンターのキャビネットを完成する。

（2）壁面固定

●製品の前倒れ防止のため、背板に穴をあけて壁面に固定する。



（3）カウンタートップの連結

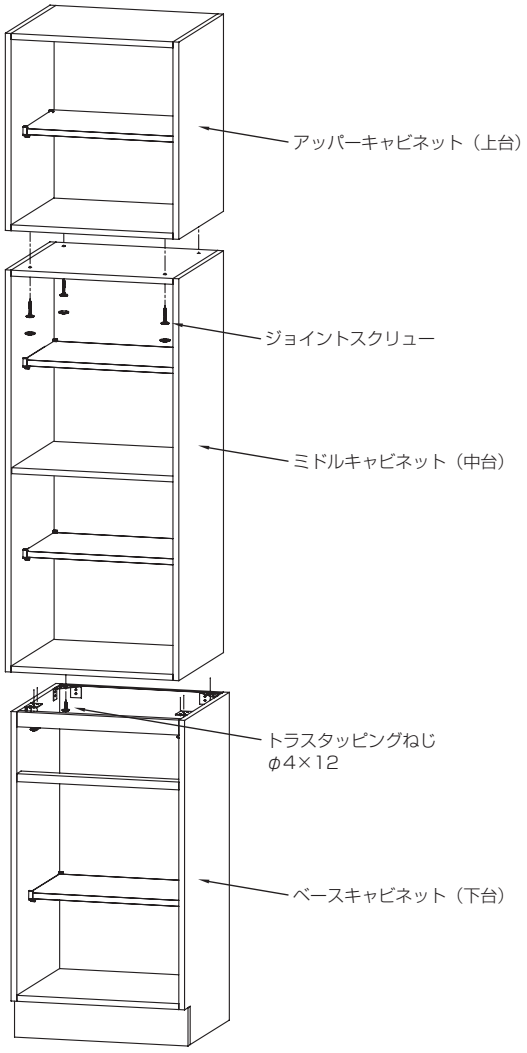
①カウンタートップを連結したキャビネットに載せる。
②付属のタッピングネジで庫内よりカウンタートップを固定する。

【トールキャビネットの設置】

付属の取付設置説明書に従い、
取り付けてください。

キャビネットの上下連結

①ミドルキャビネット(中台)をベースキャビネット(下台)の上に載せる。
②面合わせしミドルキャビネット(中台)の底面へベースキャビネット(下台)よりトラスタッピングねじ(φ4×12)で固定する。
③アッパーキャビネット(上台)をミドルキャビネット(中台)の上に載せる。
④面合わせしミドルキャビネット(中台)とアッパーキャビネット(上台)をジョイントスクリューで連結･固定する。
⑤キャビネット背面より壁面へ固定する。

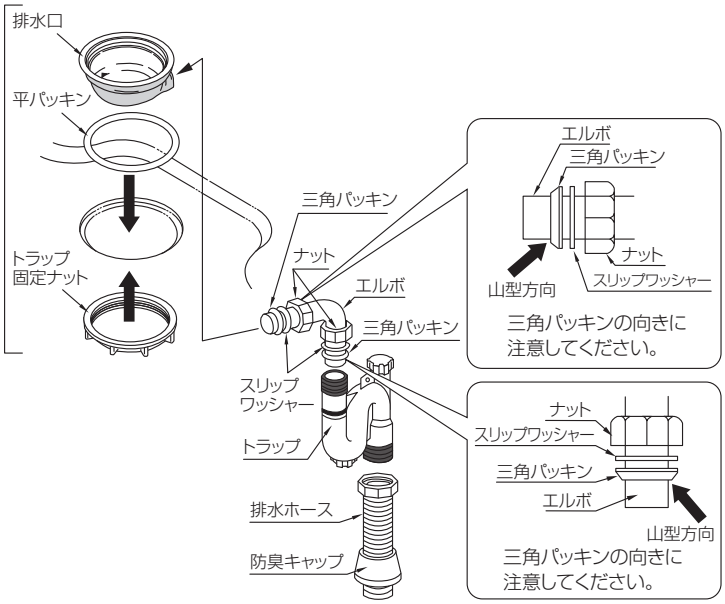


排水金具の取り付け

【排水トラップの取り付け】

(1) 排水口・平パッキンをシンクの上から差し込み、トラップ固定ナットを手で仮締めする。

(2) ①排水口の出口にエルボを奥にあたるまでしっかりと差し込み、ホースナットを手締めで固定する。
②エルボにSトラップを差し込み、手締めで固定する。

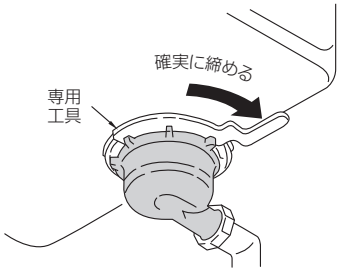


⚠ 注意

禁止

固定には工具などを使用しない。
樹脂部分などがわれるおそれがあります。

(3) トラップ固定ナットを専用工具で固く締め付け、固定する。
※エルボがぐらつかないことを確認してください。



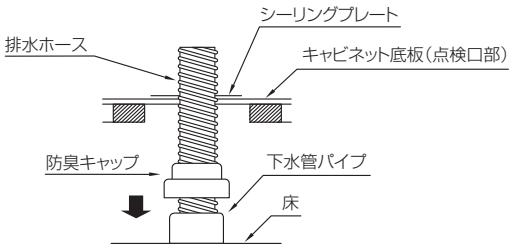
⚠ 注意

禁止

トラップ固定ナットの取り付けには専用工具以外は使用しない。
他の工具を使用すると均一に締まらなかったり、樹脂部分がわれるおそれがあります。

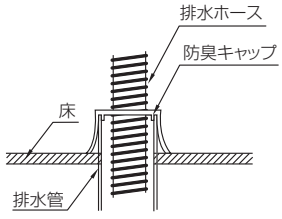
(4) Sトラップのホース接続部に排水ホースを差し込み、袋ナットを締め付ける。

(5) 排水ホースをシーリングプレートと点検口フタまたは配管カバーに通す。
(シーリングプレートはテープ保護紙を取り点検口フタまたは配管カバー上部に貼り付ける)



(6) ホースがたるまない位置まで防臭キャップを排水ホースに差し込み、排水管に確実に取り付ける。
※ホースが長い場合は適切な長さに切断してください。

管工事



※防臭キャップを排水管に密着させてください。

(7) 点検口フタまたは配管カバーを取り付けねじで固定する。

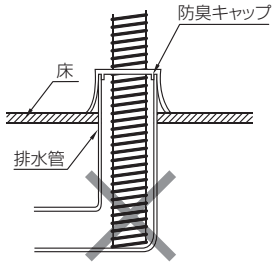
排水金具の取り付け

⚠ 注意

禁止

排水ホースは排水管の底に当てたり、たるませて取り付けてない。

排水能力が低下してシンクから水があふれ、周囲を汚損するおそれがあります。ホースを適切な長さに切断してください。



⚠ 注意

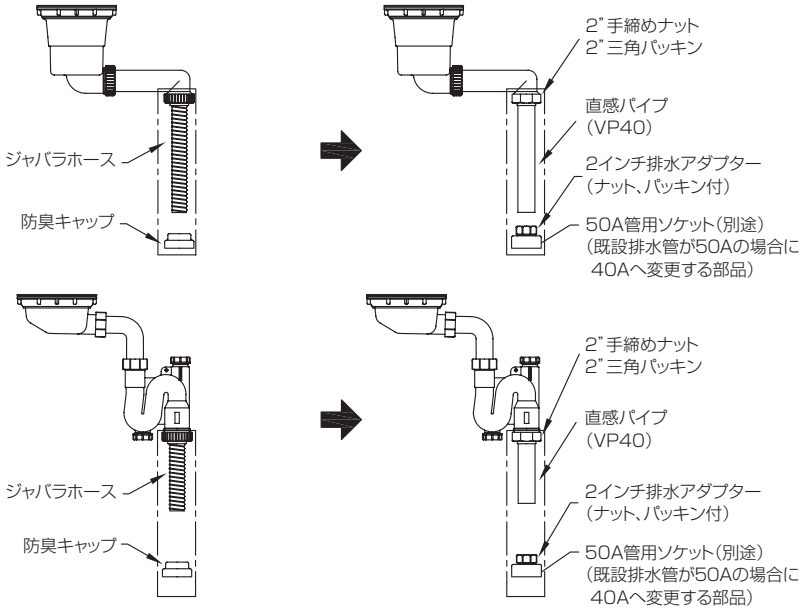
必ずおこなう

防臭キャップと排水管の接続は接着剤またはシール剤で必ずシールする。

シールが不完全な場合、湯気が上がり、キャビネットや床などが腐るおそれがあります。

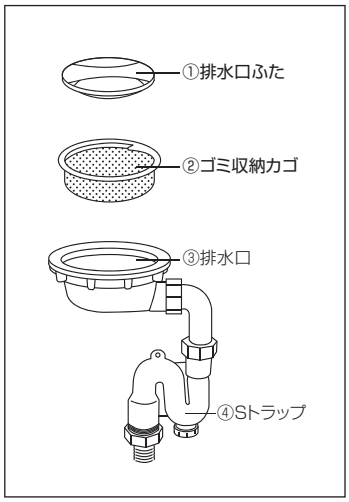
取付設置後の確認 シンクに水を満水にして、各接続部に水もれがないことを確認する。

●長期優良住宅の場合は、「維持管理への配慮・等級3」の仕様となり、直管部材が必要ですので直管部材を設備工事店様又は、最寄の当社の営業所へ依頼してください。
取り付けは下記の取り付け手順に従い行ってください。



●取り付け手順
同梱のジャバラホース、防臭キャップを取り外し、直感パイプを取り付け2インチ排水アダプターを取り付けてください。

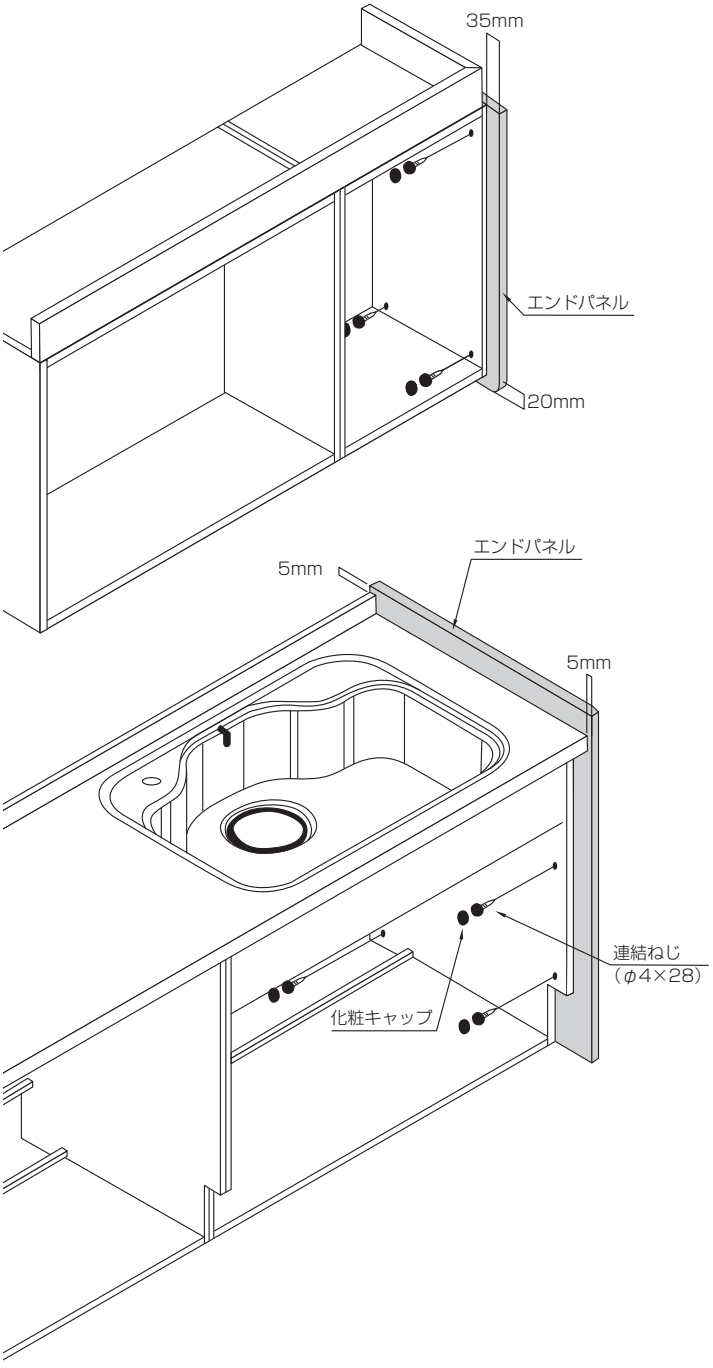
ゴミ収納器付き排水トラップセット例



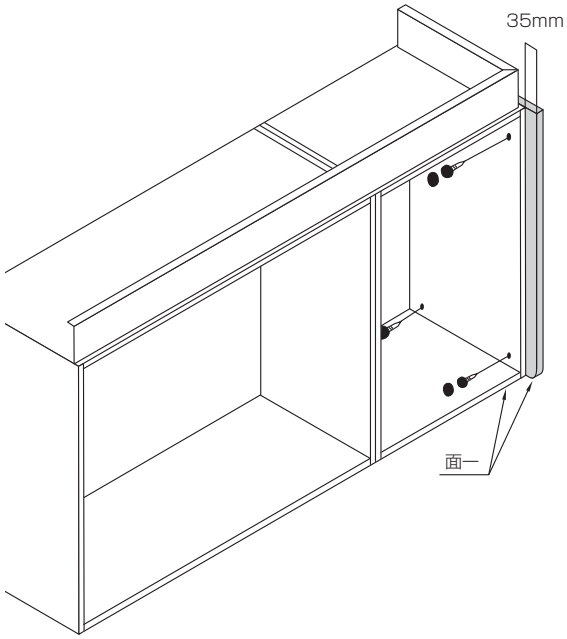
エンドパネルの取り付け

①下図取り合いに合わせ、エンドパネルの位置を合わせてください。
②取り付けはキャビネット内側より連結ねじで止めてください。
③エンドパネルとカウンターや壁面とのすき間をシリコーンシール剤でコーキングしてください。
（「コーキング処理」参照）

【取手無しウォールキャビネットの場合】



【取手付きウォールキャビネットの場合】



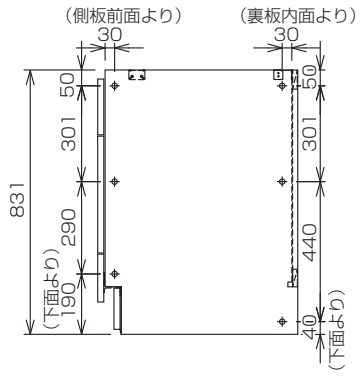
エンドパネルの取り付け

〈キャビネット・エンドパネル連結位置〉

ベースキャビネット

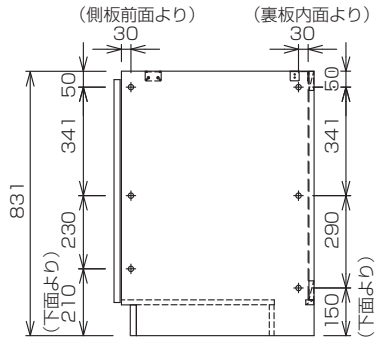
アンダーストッカー用

引き出しキャビ

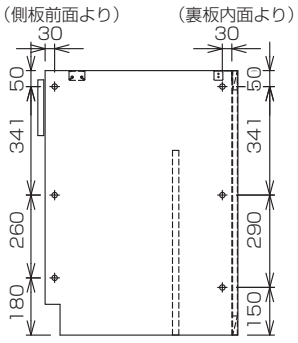


アンダーストッカーなし用　ベーシックタイプ

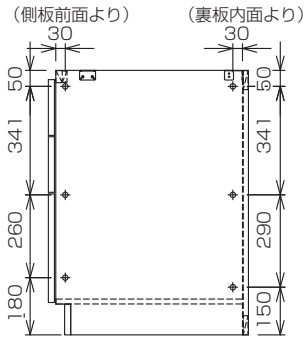
開き扉キャビ



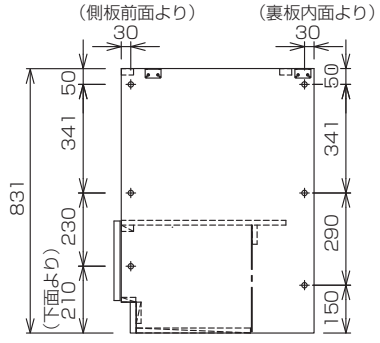
シンクオープン



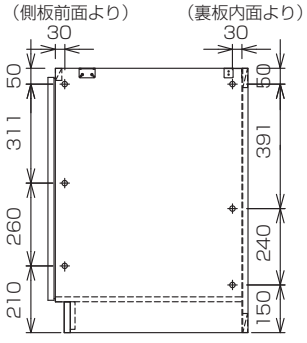
３段引き出し



食洗キャビ

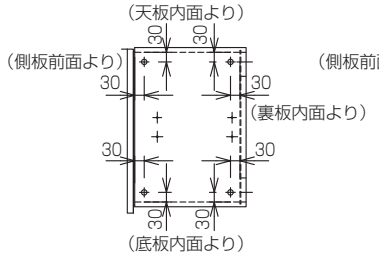


開き扉キャビ（棚板付）

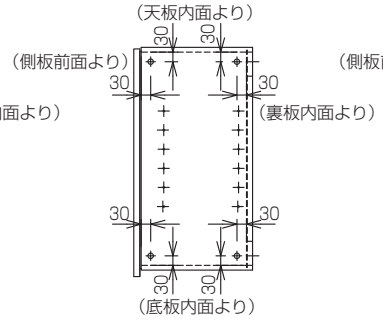


ウォールキャビネット

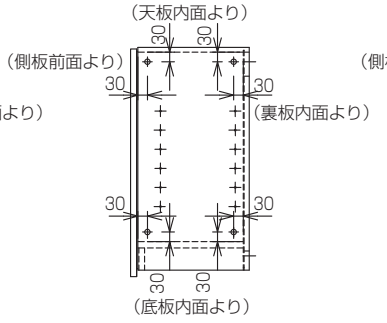
H=500



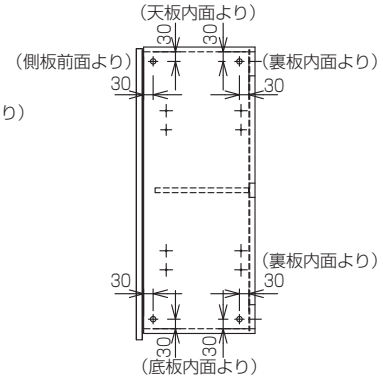
H=700



棚下灯用　H=700



H=900



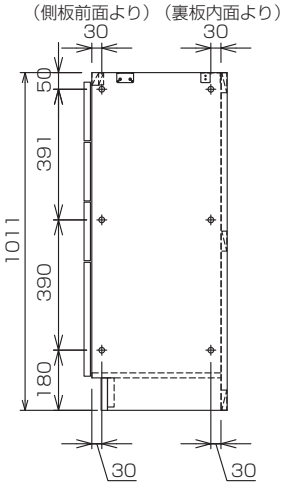
エンドパネルの取り付け

〈キャビネット・エンドパネル連結位置〉

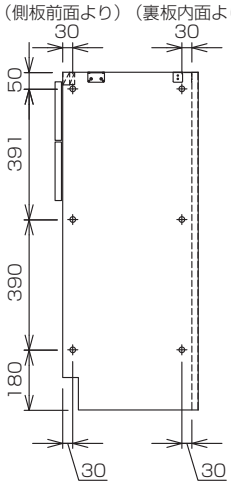
カップボードユニットの場合

ベースキャビネット（下台）H=1030用

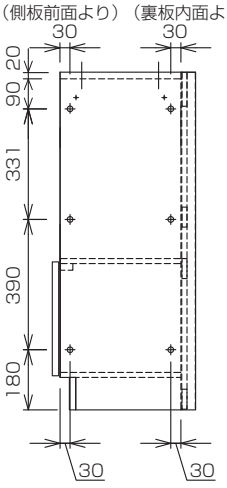
4段引き出し



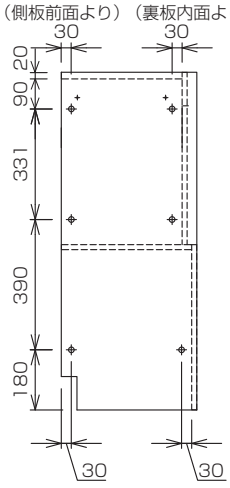
2段引き出しオープン



家電収納1段引き出し

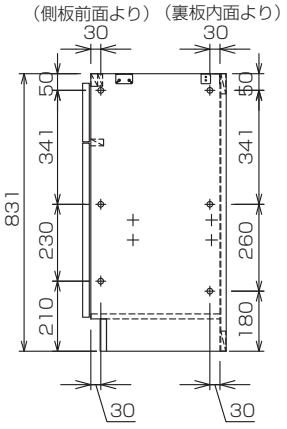


家電収納オープン

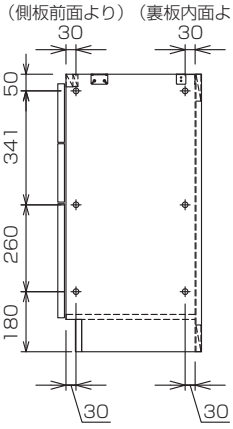


H=850用

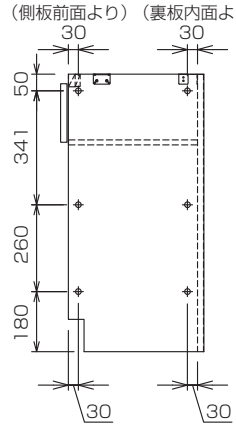
1段引き出し開き



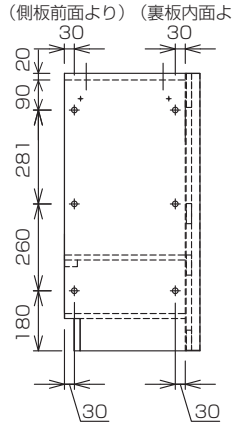
3段引き出し



1段引き出しオープン

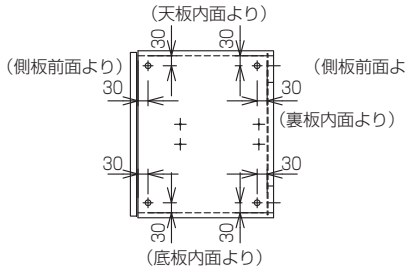


家電収納1段引き出し

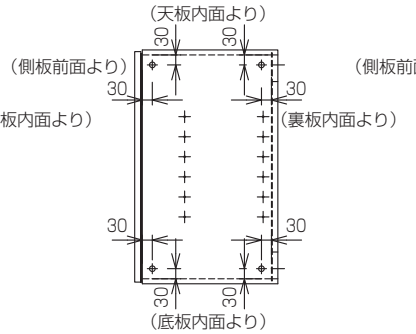


アッパーキャビネット（上台）

H=500

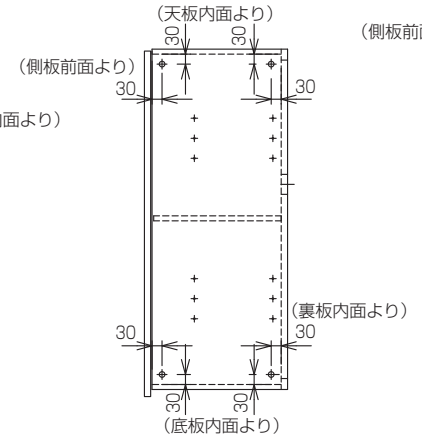


H=700



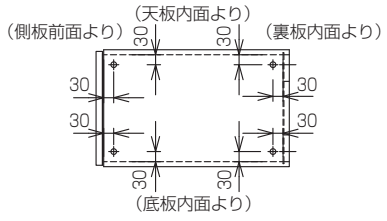
ミドルキャビネット（中台）

H=1019



アッパーキャビネット（上台）

冷蔵庫上台

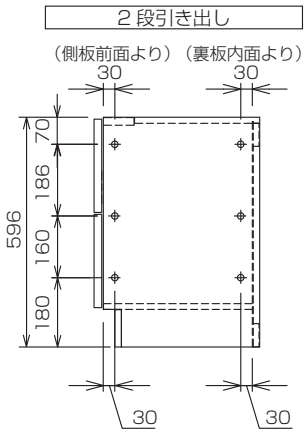


エンドパネルの取り付け

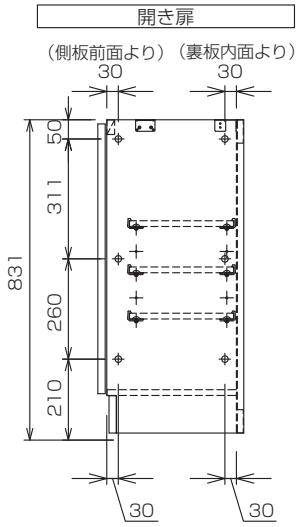
〈キャビネット・エンドパネル連結位置〉

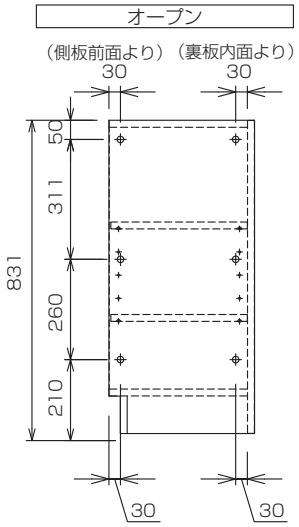
カップボードユニットの場合

大型スライドキャビネット用下台



リビング収納　H=850用



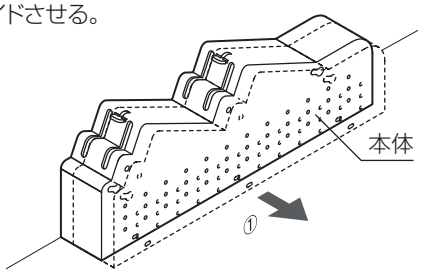


包丁差し

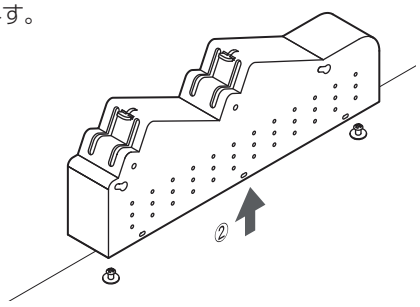
引き出しオールスライドタイプのシンクキャビネットに付属の包丁差しは取り外すことができます。
また、包丁差しの底板も外してお手入れすることができます。
※通常の作業では取り外す必要はありません。

【本体の取り外し方法】

①本体を奥側にスライドさせる。

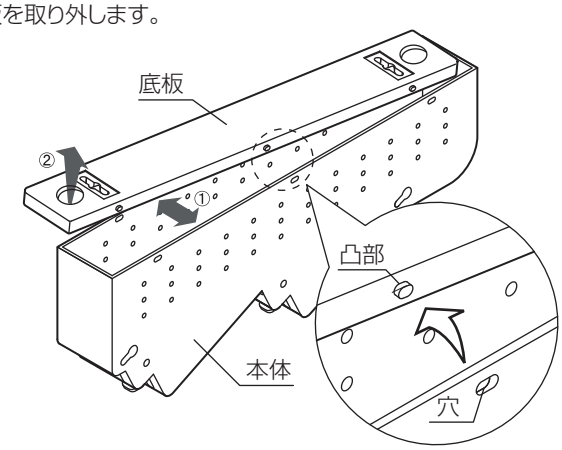


②上に持ち上げ取り外す。



【底板の取り外し方法】

本体を軽く左右に広げながら、
底板の丸穴に指を引っ掛けて、
底板を取り外します。



底板の6箇所の凸部を
本体の穴から外します。

扉と引き出しの調整

⚠ 警告

必ずおこなう

取り外した扉および引き出しを取り付けたら、傾き・がたつき・丁番のゆるみがないことを必ず確認する。

扉の取り付けに異常があると、使用中に落下してけがをするおそれがあります。

⚠ 注意

必ずおこなう

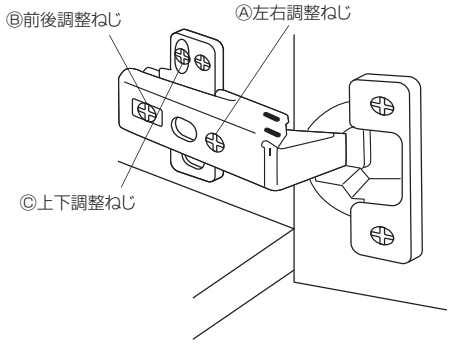
扉と引き出しの調整は電動工具を使用しないで、ハンドドライバーを使用して必ず手回しで行う。

破損の原因となり、使用中に落下してけがをするおそれがあります。

扉の調整

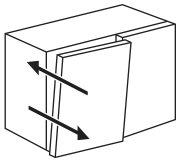
扉が傾いたり、がたついているときは、丁番で調整してください。

段違いの調整



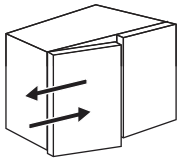
扉の前後調整

扉を取り付けた後Ⓑをゆるめて前後調整し、締めなおします。



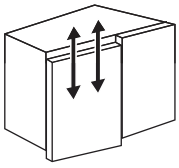
扉の左右調整

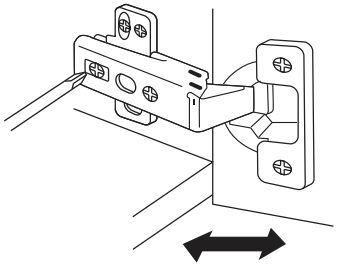
Ⓑの固定ねじを締めたまま Ⓐをまわして、左右調整をします。

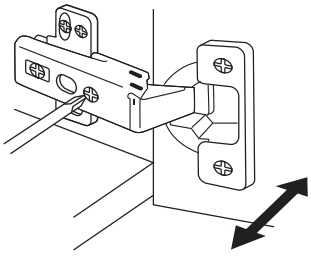


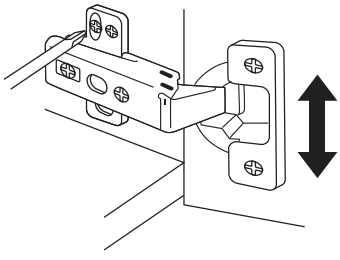
扉の上下調整

Ⓒをゆるめて扉ごと上下調整をしたあと、締めなおします。









扉と引き出しの調整

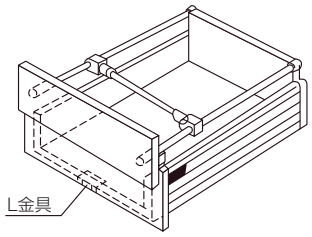
引き出しの調整

⚠ 安全上のご注意（必ずお守りください）

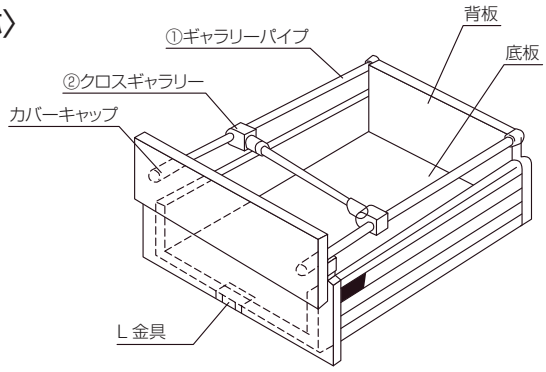
引き出しがキャビネットレールに確実に固定されていない状態で引き出しを出すと、引き出しが外れて下に落ちる危険性があります。
事故防止のため、引き出しに物を入れない状態で引き出しを出し、キャビネットレールに固定されているか確認してください。判断の目安は、引き出しを一番手前まで出したとき、その位置でしっかり止まっている状態です。
引き出しがキャビネットレールにきちんと固定されていない場合は、取り付け方法の手順を確認の上やり直してください。

⚠ 調整時のご注意

キャビネット間口寸法600mm以上は、引き出し底板と引き出し前板がL金具で固定してあります。
（前板反り防止金具）
調整時にはねじをゆるめてください。調整後はねじを締めてください。



〈部品名称〉

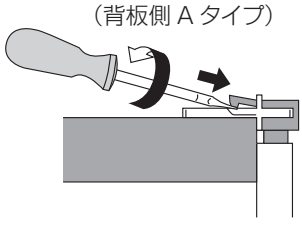


●ギャラリーパイプ取り外し方法

カバーキャップを後方に引っ張って移動させます。

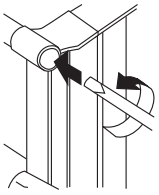
❶背板側のギャラリーパイプを外します。

（背板側 A タイプ）



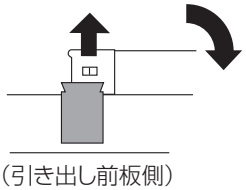
⊖ドライバーを差し込んで外します。

（背板側 B タイプ）



⊖ドライバーをまわして外します。
指で外側に引っ張って外すことも可能です。

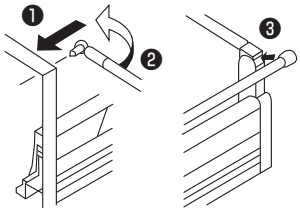
❷ギャラリーパイプを前板側に倒し引き出し前板のダボを抜きます。



（引き出し前板側）

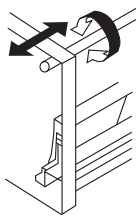
●ギャラリーパイプ取り付け方法

❶ギャラリーパイプ先端ダボを前板下穴に入れます。
❷パイプを引き出し前板に対し、垂直に起こします。
❸ギャラリーパイプ後端部を背板に押し付けて入れます。



●引き出し前板角度調整方法

②クロスギャラリーをご利用の場合は、クロスギャラリーのねじをゆるめます。
①ギャラリーパイプをまわし傾きを調整し、再び②クロスギャラリーのねじを締めます。



扉と引き出しの調整

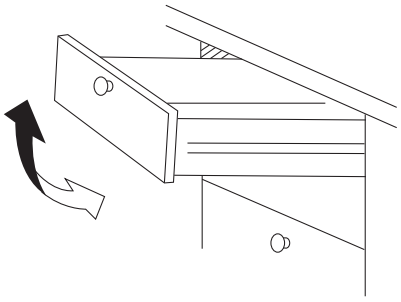
注：引き出しのレールには２つのタイプがありますので、お使いのレールを確認の上ご覧ください。

引き出しの調整

【引き出し（A タイプ）】引き出しに物を入れない状態で行ってください。

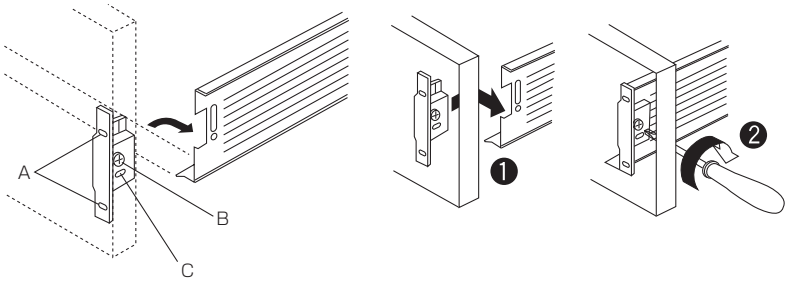
●引き出しの取り外し方法

①引き出しをいっぱいまで引き出します。
②ストッパーが働いているので手前を
　持ち上げながらさらに引き出します。



●引き出しの取り付け方法

①引き出しのレールを側板のレールにのせます。
②ストッパーに注意しながらはめ込みます。



●引き出し前板の取り外し方法

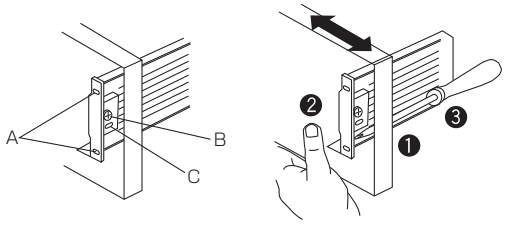
ねじBを⊕ドライバーでゆるめて引き上げるように
して前板を外します。

●引き出し前板の取り付け方法

取り外しの逆の手順で取り付けます。取り付け後は
ねじBを⊕ドライバーでしっかり締めます。

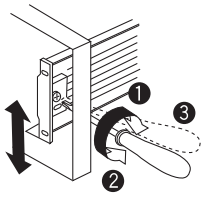
●左右の調整方法

ねじAとねじBを⊕ドライバーでゆるめ、前板の左右の
位置を調整し、再びねじAとねじBを締めます。



●上下の調整方法

ねじBを⊕ドライバーでゆるめカムCをまわして上下の
位置を調整し、再びねじBを締めます。



扉と引き出しの調整

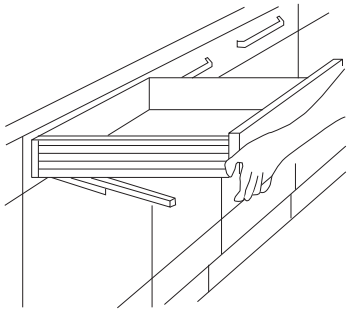
注：引き出しのレールには２つのタイプがありますので、お使いのレールを確認の上ご覧ください。

引き出しの調整

【引き出し（B タイプ）】引き出しに物を入れない状態で行ってください。

●引き出しの取り外し方法

①引き出しを手前に出します。
②引き出し前板を両手で持ち上げながら一番手前まで出し、少し上に持ち上げて引きます。

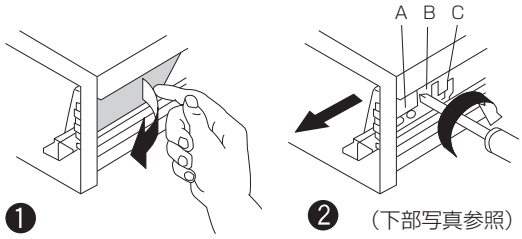


●引き出しの取り付け方法

①左右のキャビネットレールをキャビネット内におさめます。
②引き出しを両手で持ち、引き出しをキャビネットレールの上に乗せます。
③②の状態で引き出しをキャビネットに押し込みます。「カチャ」と音がしたことを確認します。さらに確実に取り付けられていることを確認するために、もう一度引き出しを数回開閉してください。

●引き出し前板の取り外し方法

①引き出し左右の脇カバーを取り外します。
②B部に⊕ドライバーを差し込み、引き出し後ろ側に止まるまでまわすと、引き出し前板が外れます。



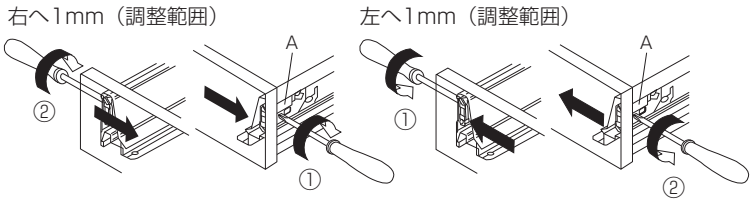
●引き出し前板の取り付け方法

B部全体が見えていることを確認して、取り付け金具付前板を引き出しに差し込みます。「カチッ」と音がします。

※取り付け金具が差し込めないときはB部の状態を確認してください。
B部全体が見えていないときは、⊕ドライバーで引き出し後ろ側に止まるまでまわしてください。
（上記「引き出し前板の取り外し方法」参照）

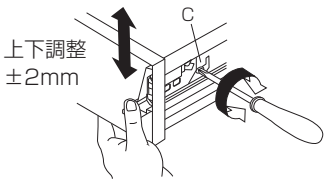
●左右の調整方法

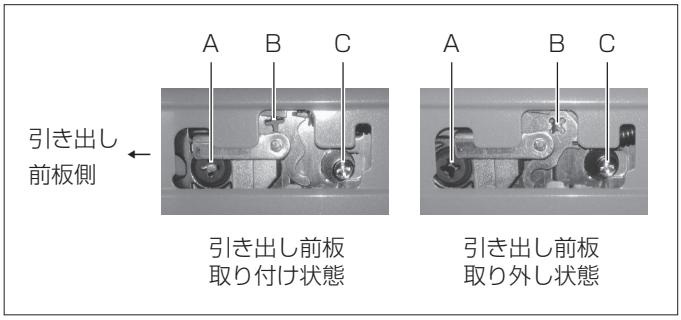
ねじAを⊕ドライバーで調整します。
引き出し前板の右への移動は右へまわします。
左への移動は左へまわします。
（左右調整　±１mm）



●上下の調整方法

ねじCを⊕ドライバーで調整します。
（上下調整　±2mm）





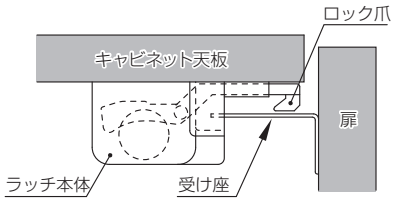
扉と引き出しの調整

耐震ロックの調整（ウォールキャビネット・アッパーキャビネット扉）

1. 特徴

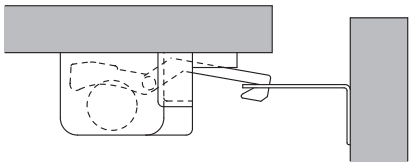
揺れを感知すると、内部のボールの動きによりロック爪が下がった状態を維持しているため、ロックが解除されません。
扉を閉めるとロックが自動的に解除されます。

【通常使用状態】



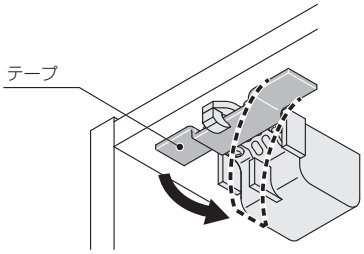
揺れ感知

【ロック状態】



2. 注意

搬送中の破損防止対策として、ロック爪をテープで固定しています。
組立・設置完了後、テープをはがしてください。

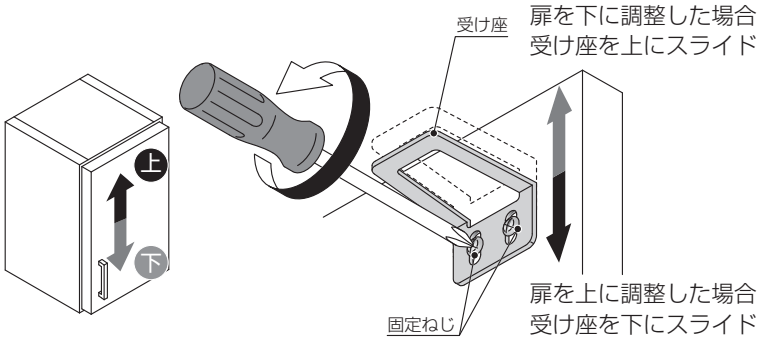


3. 調整方法

〈扉を上下に調整した場合〉

耐震ロックの受け座の位置を調整してください。

❶固定ねじをゆるめる
❷受け座を上下にスライドさせて
調整する
受け座本体調整代（上：3.5mm　下：3.5mm）
❸固定ねじを締める

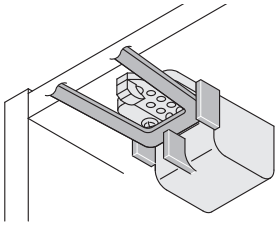


〈調整後の確認〉

重要

扉が完全に閉まるか必ず確認してください。

●耐震ロックの調整完了後、扉が完全に閉まるか確認してください。
扉が完全に閉まれば調整は完了です。
●扉が閉まらない場合や異音がする場合は再度、扉および受け座を
調整して扉が完全に閉まるようにしてください。



調理機器の取り付け

⚠ 注意

必ずおこなう

機器に付属の取付・設置説明書および本体の注意表示を必ず確認し、正しい取り付けを行う。
取り付け方法を誤ると、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。

水栓の取り付け

⚠ 注意

必ずおこなう

水栓に付属の取付・設置説明書および本体の注意表示を必ず確認し、正しい取り付けを行う。
取り付け方法を誤ると、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。

※お使いの水栓が水受けトレー付の仕様である場合は、水受けトレーの設置をしてください。
水受けトレーは、シャワーヘッドを引き出してお使いの場合にシャワーホースを伝って落ちる水を受けるためのものです。

照明の取り付け

⚠ 注意

必ずおこなう

照明に付属の取付・設置説明書および本体の注意表示を必ず確認し、正しい取り付けを行う。
取り付け方法を誤ると、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。

周辺商品の取り付け

⚠ 注意

必ずおこなう

おのおのに付属の取付・設置説明書および本体の注意表示を必ず確認し、正しい取り付けを行う。
取り付け方法を誤ると、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。

オプションの取り付け

⚠ 注意

必ずおこなう

オプションに付属の取付・設置説明書および本体の注意表示を必ず確認し、正しい取り付けを行う。
取り付け方法を誤ると、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。

ガラスパーテーション(オプション)の取り付け

⚠ 注意

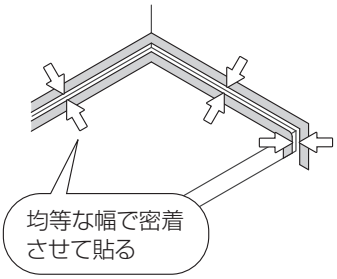
必ずおこなう

ガラスパーテーションに付属の取付・設置説明書に従い、取り付けてください。

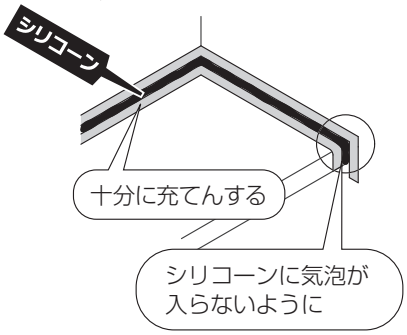
コーキング処理

コーキング処理の手順

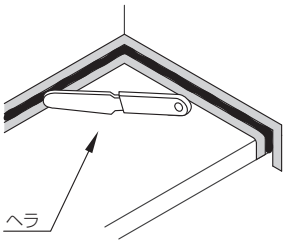
❶マスキングテープを貼る。



❷シリコーンシール剤を
充てんする。



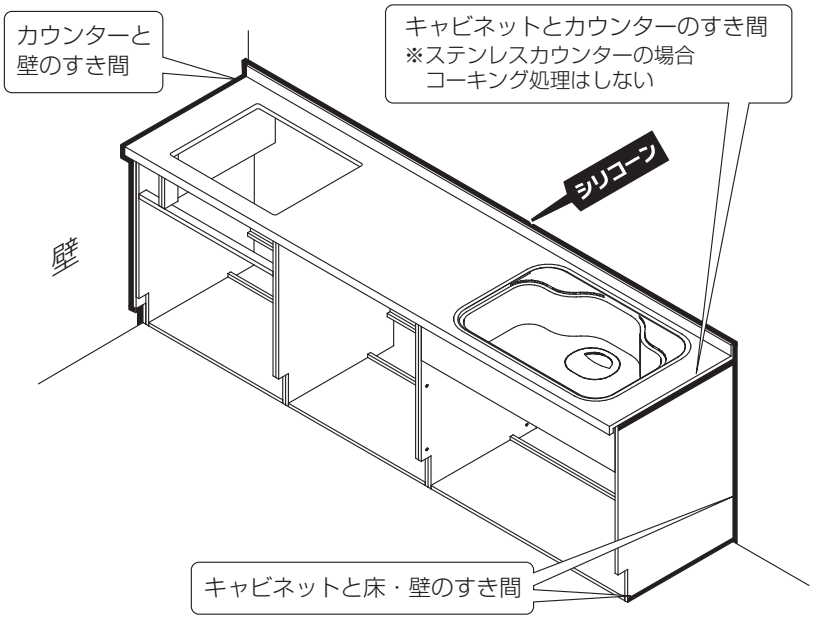
❸ヘラを使って凹凸がない
ように仕上げる。



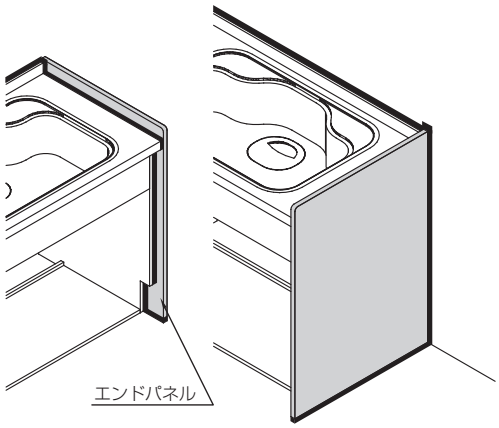
コーキング部位

カウンターおよびキャビネットなどとキッチンパネル、壁面、エンドパネル、床面などのすき間をシリコーンシール剤でシールしてください。

※壁面がキッチン取り付け後仕上げの場合は、材工建築工事となります。



〈エンドパネルの付く場合〉



⚠ 注意

必ずおこなう

上記で指定した箇所は必ずシリコーンシール剤でシールする

シールが不完全な場合、水こぼれによりキッチン部材・床・壁の損傷や劣化の原因になります。

取り付け・仕上げに使われる、溶剤・接着剤・洗剤・その他薬品類については、容器などに記載の注意表示に従って、正しく使う。

誤った使い方をすると、人体に影響が出たり、キッチン部材・床・壁の損傷や劣化の原因になります。

清掃・検査

【清掃】

キッチン取り付け完了後､清掃を行ってください。

●表面のほこり、汚れを拭き取りながら傷などの損傷を調べてください。

●梱包材、木くずをかたづけてください。

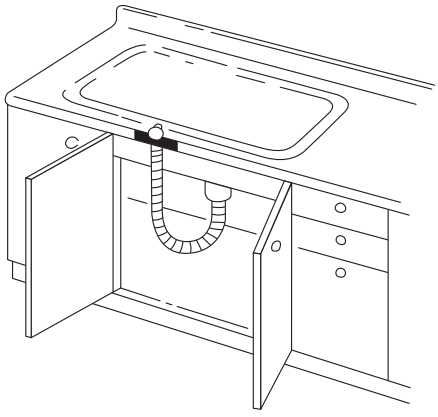
【検査】

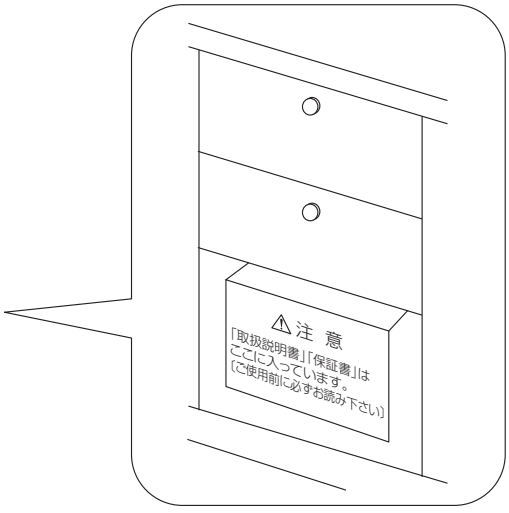
必ず検査を実施してください。

●取り付け設置後の検査のチェックリストに基づいて、外観・機能・傷などの検査を行ってください。

●チェックリストに取付設置店・取付設置日・取付設置責任者を記入してください。

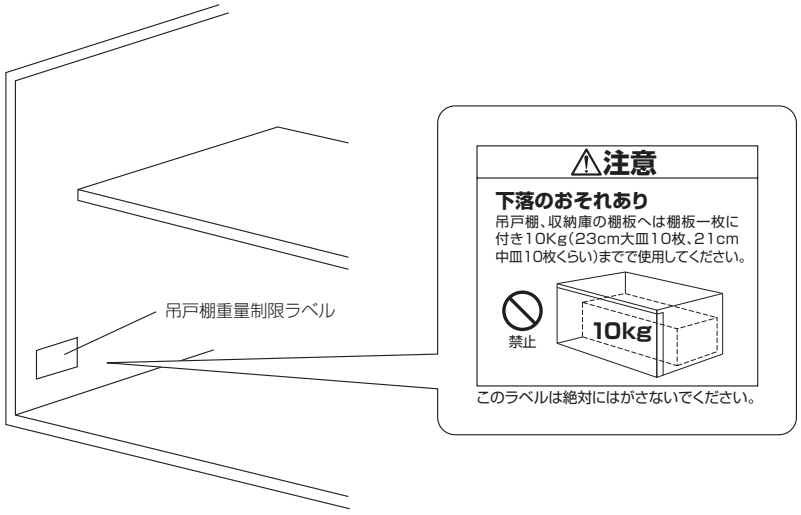
●取扱説明書（保証書付）の保証書に必要事項を記入し、引き出しの最下段に必ず入れ、別紙の印刷紙を引き出しにはさんでおいてください。フード、コンロ等機器用取扱説明書、保証書も必ず入れてください。





【ラベル貼り付け】

●吊り戸棚重量制限ラベルを下記の位置に貼り付けてください。
（又は貼ってある事を確認してください）



清掃・検査

取付設置後の検査

取付設置が終わったら、チェックリストに基づいて必ず検査をおこなってください。

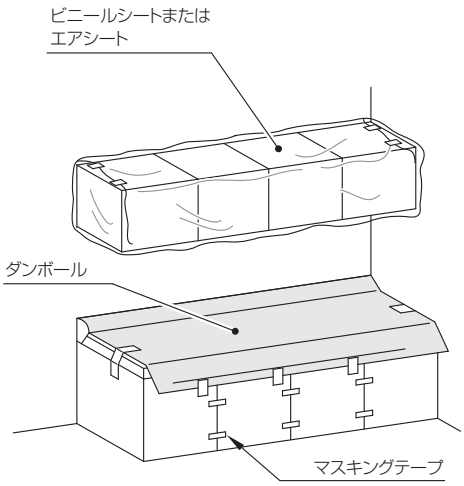
項　目		チェックリスト	検査結果
ベースキャビネット ウォールキャビネット	1	キャビネットは壁にしっかり固定したか、ガタツキは無いか	良 ・ 否 ・ 未
	2	キャビネット同士の連結はしっかりされているか	良 ・ 否 ・ 未
	3	キャビネットの上下・前後は揃っているか	良 ・ 否 ・ 未
	4	引き出しの動きはスムーズか	良 ・ 否 ・ 未
扉	5	扉の上下・左右・前後のバランスは良いか	良 ・ 否 ・ 未
	6	開閉時の調子は良いか、丁番・レールの緩みはないか	良 ・ 否 ・ 未
トップ	7	トップは水平に固定したか	良 ・ 否 ・ 未
	8	バックガードと壁との取り合いは適切か	良 ・ 否 ・ 未
レンジフード	9	しっかり壁に固定したか	良 ・ 否 ・ 未
	10	ウォールキャビネットとの取り合いは良いか	良 ・ 否 ・ 未
	11	コンセントにしっかり接続したか	良 ・ 否 ・ 未
水　栓	12	カウンターにしっかり固定したか	良 ・ 否 ・ 未
	13	レバーの動きはスムーズか	良 ・ 否 ・ 未
シンク（ボール）	14	排水トラップはしっかり固定したか	良 ・ 否 ・ 未
	15	排水管へは防虫防臭キャップとともに適切に継いだか	良 ・ 否 ・ 未
コンロ	16	ゴトク・プレートなどにガタつきは無いか	良 ・ 否 ・ 未
	17	グリル扉やスイッチ部の開閉はスムーズか	良 ・ 否 ・ 未
	18	点火火花は正常か	良 ・ 否 ・ 未
全　体 その他	19	指示通り取り付けしたか（オプション類含む）	良 ・ 否 ・ 未
	20	各部品・部材にキズ・汚れは無いか	良 ・ 否 ・ 未
	21	各部品・部材にガタつき・キシミは無いか	良 ・ 否 ・ 未
	22	取り付け後きれいに清掃したか（キャビネット･扉･引き出し内･カウンター）	良 ・ 否 ・ 未
	23	キッチンパネル表面がコーキングなどで汚れていないか	良 ・ 否 ・ 未
	24	保証書は１ヶ所に保管したか	良 ・ 否 ・ 未
	25	養生はしたか（特にトップ）	良 ・ 否 ・ 未
	26	食洗機などのビルトイン機器はキチンと取り付けられたか	良 ・ 否 ・ 未
	27	付属品などは不足なくそろっているか	良 ・ 否 ・ 未

・取付設置店	・取付設置日	・取付設置責任者

養生

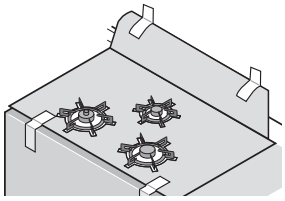
【養生(下記養生ポイント参照)】

- ●キッチン取付後の設備、建築工事などで汚れたり・傷ついたりしないように厳重に養生しておいてください。
- ●カウンター・シンク面の養生は特に厳重に行ってください。
- ●養生材は、梱包に使ったダンボールを使うか、現場手配のエアシートなどを使うなどして保護してください。

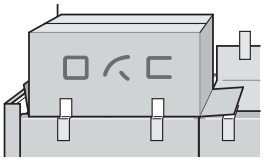


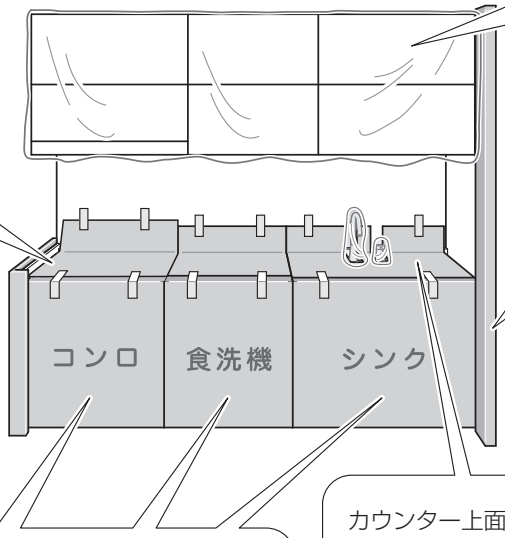
養生ポイント キッチン取付完了後はクリーニングをしたあと、下記要領にて養生をしてください。

梱包内に養生専用ダンボールがある場合は使用する。



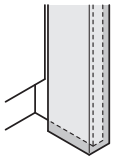
養生専用ダンボールがない調理機器は、包装ダンボールを逆さに使用する。





ウォールキャビネットおよびフードはビニールまたはエアーシートで養生する。

エンドパネルは木口面周辺をダンボールで養生する。

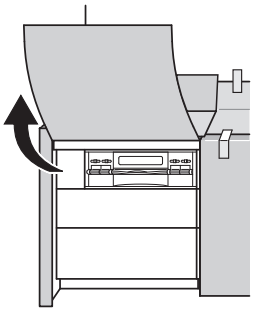


フロアキャビネットは、ダンボールで養生する。

※後工程工事作業時にめくりやすいように**キャビネットサイズ毎に分割**してください。

ポイント!

工事内容を書いておくと
後工程業者様がわかりやすくなります。

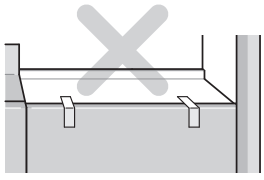


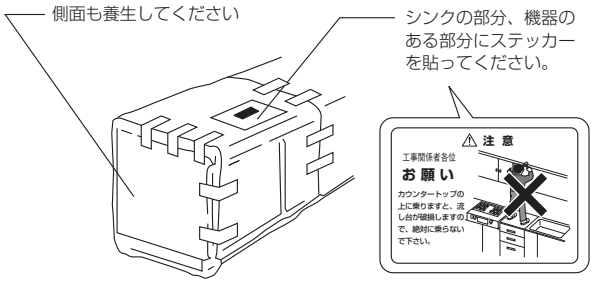
カウンター上面はダンボールで養生する。

【注意】

カウンター上面や扉に直接養生テープを貼らないでください。

※糊残りや汚れの原因となります。





MEMO

MEMO

MEMO

〈取付・設置業者様へ〉

各種取扱説明書は必ずキャビネット内にまとめてお引き渡しください。